

地域の大学連携による 学生の国際キャリア開発プログラム

平成 22 年度総合報告書

平成 21 年度文部科学省選定
大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

宇都宮大学 作新学院大学 白鷗大学

目 次

刊行にあたって	1
第1部 事業実績	
1. 事業計画の策定	3
1-1 平成21年度事業案	
(1) 選定の経緯	
(2) 事業案	
(3) 予算案	
1-2 平成22年度事業案	
(1) 事業案	
(2) 予算案	
1-3 平成23年度事業案	
(1) 事業案	
(2) 予算案	
2. 事業の実施	16
「国際キャリア開発プログラム」の開講にあたって	
2-1 国際キャリア合宿セミナー	
(1) 国際キャリア開発基礎	
(2) 国際実務英語 I	
(3) 国際キャリア開発特論	
2-2 国際キャリア実習	
(1) 国際キャリア実習 I	
(2) 国際キャリア実習 II	
2-3 国際キャリア FD 委員会企画講演会	
(1) 『挑む』—アフリカで47年—	
(2) 観光とまちづくりを考える講演会	
(3) 『つながる！世界×地域×大学生』～今だから出来ること～	
2-4 国際キャリア FD 委員会企画公開講義	
(1) キベラ・スラムとケニア社会事情	
(2) 「限界集落」を支える地域おこし協力隊の活動（新潟県十日町市）	
(3) 「共に生きるために」有機農業とコミュニティ・ライフの実践	
(4) ファシリテーター研修会	
(5) 『参加型って？』ファシリテーターの役割、体験型演習	
(6) ミニ合宿セミナー「再会スペシャル&これから」	
(7) 教育に関する学生とのブレインストーミング	

(8) 国際キャリア開発プログラムについてのヒアリング

(9) ミニ・スタディーツアー「出会いと学びのフィリピン訪問」

3. 事業の広報 38

3-1 ホームページ

3-2 ポスター・チラシ・パンフレット

3-3 メールマガジン

3-4 ブログ

3-5 新聞掲載

4. 事業の管理体制 43

・説明と組織図

4-1 国際キャリア教育会議

(1) 役割

(2) 活動実績

4-2 国際キャリアFD委員会（ワーキンググループを含む）

(1) 役割

(2) 活動実績

4-3 国際キャリア教育点検・評価委員会

(1) 役割

(2) 活動実績

4-4 国際キャリア合宿セミナー実行委員会

(1) 役割

(2) 活動実績

4-5 国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会

(1) 役割

(2) 活動実績

第2部 地域社会からの支援 49

1. 物的支援

(1) 内容

(2) 実績

2. 人的支援

(1) 内容

(2) 実績

3. メディア報道

(1) 内容・実績

第3部 点検評価

1. 事業評価	51
1-1 I 達成状況の評価結果及びII 評価結果の判断理由	
(1) 国際キャリア教育会議	
(2) 定量的評価	
・ 評価対象項目	
・ 評価基準	
2. 授業評価	61
2-1 「国際キャリア合宿セミナー2010」アンケート結果	
2-2 「国際キャリア実習I」アンケート結果	
附表	63
1. 委員会規定	
(1) 国際キャリア教育会議	
(2) 国際キャリアFD委員会	
(3) 国際キャリア教育点検・評価委員会	
(4) 国際キャリア合宿セミナー実行委員会	
2. 委員会名簿	
(1) 国際キャリア教育会議	
(2) 国際キャリアFD委員会	
(3) 国際キャリア合宿セミナー実行委員会	
(4) 国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会	
3. シラバス	
(1) コンソーシアムとちぎ	
(2) 宇都宮大学国際学部	
(3) 白鷗大学経営学部	

刊行にあたって

地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム 取組担当 友松 篤信

「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」は、平成 16 年度から毎年夏に行ってきた「国際キャリア合宿セミナー」を発展させたプログラムです。「国際キャリア合宿セミナー」は、国際分野でのキャリア教育を全国に先駆けて実施した取組であり、高校生や社会人も参加する産学官および高大連携の企画として、全国規模のセミナーへと発展しています。参加者は、宇都宮大、白鷗大、作新学院大、国際医療福祉大の学生が 7 割、北海道大、東北大、自治医科大、東京大、国際基督教大、東京外国語大、津田塾大、前橋国際大、宮崎大学など、県外の大学生が 3 割を占めます。

本プログラムは、平成 21 年度文科省補助金「戦略的大学連携支援事業」に採択され、現在、文部科学省の助成金で運営されています。ただし、「戦略的大学連携支援事業」は、政府が行う「事業仕分け」（平成 22 年度）の対象となり、新規事業は平成 23 年度から廃止になりました。しかし、継続事業である本プログラムには、平成 23 年度も助成が行われることとなっています。

平成 22 年度は、既存の「国際キャリア開発基礎」に加えて、初めて「国際キャリア開発特論」「国際実務英語 I」を開講し、「国際キャリア合宿セミナー」を 9 月と 2 月に 3 回開催しました。平成 22 年度に開講された「国際キャリア実習 I」（通年開講）では、多くの学生が国内の企業、自治体、NPO/NGO で国際分野の実務を経験しています。また、平成 22 年度は、「国際キャリア実習 II」のための海外インターン実習先の開拓を行い、平成 23 年度開講に備えました。「国際キャリア教育会議」では、3 大学に加え、国際医療福祉大学、栃木県、公的機関、市民団体、経営者団体からの委員も参加し、本プログラムの企画や評価に関する活発な討論が行われました。「国際キャリア教育 FD 委員会」は、本プログラムの実務レベルの意思決定と教育改善に取り組みました。

「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」は、文部科学省の助成金に加え、宇都宮大、白鷗大、作新学院大、国際医療福祉大、栃木県、国際協力機構・JICA 地球ひろば、大学コンソーシアムとちぎ、いっくら国際文化交流会、(株)国際開発ジャーナル社、栃木県 JICA 専門家連絡会、栃木県青年海外協力隊 OB 会、あしぎん国際交流財団、キリンビール (株)、栃木県牛乳普及協会など、多くの大学・企業・団体及び学生実行委員のご協力を得て実施しています。関係者の皆様のごこれまでのご支援、ご協力に対して、心よりお礼を申し上げます。

平成 22 年度の活動実績と評価結果を記した平成 22 年度総合報告書を、これまでご協力頂きました皆様にお届けいたします。

第1部 事業実績

1. 事業計画の策定

1-1 平成 21 年度事業案

(1) 選定の経緯

平成 16 年度からの過去 5 年間の実績をもとに、文部科学省の平成 21 年度「大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）」に応募するように、渡邊直樹副学長（企画・広報担当）から国際学部友松篤信教授に平成 21 年 4 月に指示があった。友松教授は、渡邊一幸財務部長及び飯野明正人事課長の示唆等を参考に基本案を作成し、これに渡邊副学長が検討を加え、さらに國友孝信副学長（総務・財務担当）の意見を求めた。こうして、「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」の事業案が「平成 21 年度『大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム』申請書」としてまとめられた。本申請書に示された取組の概要は、次の通りである。

本取組は、過去 5 年間に亘り宇都宮大学と近隣の私立大学が共同で実施してきた「国際キャリア合宿セミナー」の実績を踏まえ、大学連携の強化と地域産業界の人的資源の有効かつ効率的活用により、学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ、地域企業や自治体の国際化ニーズに応えるものである。新規国際キャリア開発科目として「国際キャリア開発特論」「国際実務英語」「国際キャリア実習」（国内・国外）等を開設し、講師として大学教員以外に地域企業の海外勤務経験者を特任教員として招聘し、短期間の集中的合宿形式を採用して学生を教育する。本教育プログラムを履修し、国際的キャリアを獲得した修了生は、海外展開する地域の企業や国際的課題解決に取り組む自治体、また国際協力・貢献活動分野への就業が可能となる。本取組は 3 大学連携の強化と地域の企業や自治体の全面的協力によりその教育力を活用する点において、助成終了後も継続可能である。

同申請書は平成 21 年 5 月に文部科学省に送付され、同省から同年 8 月に採択内定の連絡を受け、同 8 月に採択決定の通知を受けた。この事業案の予算規模は、平成 21 年度から 23 年度までの 3 年間で、総額 143,049 千円である。

採択決定後、文部科学省の要請により、平成 21 年度の事業案は「平成 21 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」（以下、「平成 21 年度調書」という。）としてまとめられ、文科省に送付された。平成 21 年 9 月に、文科省から平成 21 年度の予算案が満額認められた旨の連絡があった。

(2) 事業案

「平成 21 年度調書」に示された事業の概要は、次の通りである。

宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学、国際医療福祉大学（協力大学）は連携して「国際キャリア合宿セミナー」（「国際キャリア開発基礎」）を宇都宮・コンセーレを会場として、すでに作成された具体案に基づき 9 月に実施する。「国際キャリア教育会議」

を設置し、特任教員と事務職員を11月までに採用し、本プログラムを本格的に始動する。まず特任教員主導でFD活動のみならず業務方針や運営方針も検討する「国際キャリア教育FD委員会」を設置する。つぎに平成22年度に実施する「国際キャリア開発基礎」（平成21年度の見直し）「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際実務英語Ⅰ」に関わる基礎調査を国内外で行い、カリキュラム開発と講師の人選を行う。年度末には「国際キャリア教育評価委員会」を開催し、地元関係者を交えて業務評価と教育評価を行い、総合報告書をまとめる。

「平成21年度調書」に示した事業項目は、次の13項目からなる。

- ① 8月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」の改組充実による「国際キャリア教育会議」の設置（会議規程、人事方針、国際キャリアFD委員会設置（案）等）
- ② 8月特任教員及び雇用職員の募集・選考
- ③ 9月「国際キャリア合宿セミナー」（計画済み）を「国際キャリア開発基礎」として開講に必要な機材設備の充実（パソコン、プロジェクター、ビデオカメラ等）
- ④ 11月特任教員及び雇用職員の採用及び業務に必要な機材設備の充実（パソコン、周辺機器等）
- ⑤ 11月「国際キャリア教育FD委員会」の設置（事業管理（案）・職務分掌（案）・ポートフォリオ管理（案）・国際キャリア教育評価委員会規程（案）の作成等）
- ⑥ 11月「国際キャリア教育会議」の開催（⑤の審議・決定）
- ⑦ 12月HPの開設とコンテンツの充実、ポートフォリオ管理の実施
- ⑧ 1月「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際実務英語Ⅰ」カリキュラムの基礎調査、開発及び講演者・講師の人選（平成22年度前期に完了）
- ⑨ 2月パンフレットの作成、メーリングリスト等の整備による広報活動の充実
- ⑩ 3月「国際キャリア教育評価委員会」の設置（事業評価、教育評価）
- ⑪ 3月「国際キャリア教育FD委員会」による「平成21年度総合報告（案）」及び「平成22年度事業計画（案）」の策定
- ⑫ 3月「国際キャリア教育会議」の開催（⑪の審議）
- ⑬ 3月平成21年度総合報告書の作成・印刷

「平成21年度調書」に示した事業項目（13項目）の具体的内容は、次の通りである。

- ① 「国際キャリア教育会議」を開催し、会議規程、特任教員・雇用職員の募集・選考方針を決める。
- ② 各大学は人事選考委員会を組織して、候補者の選考を行ない、「国際キャリア教育会議」で承認する。

- ③ 「国際キャリア開発基礎」（国際キャリア合宿セミナー）の開講によって、3大学が有する教育研究分野の特徴を活かした、国際的な仕事に求められる知識や能力、これらの仕事に至るキャリアパスを考える教育を提供する。
- ④ 特任教員及び雇用職員を採用し、業務に必要な機材設備の購入を行う。
- ⑤ 「国際キャリア教育FD委員会」を開催し、事業管理（案）・職務分掌（案）・ポートフォリオ管理（案）・国際キャリア教育評価委員会規程（案）の作成等を行う。
- ⑥ 「国際キャリア教育会議」を開催し、⑤の審議・決定を行う。
- ⑦ HPの開設とコンテンツの充実を図り、広く本事業の内容を公開・提供する。また、学生指導を記録し効率化するポートフォリオ管理を行う。
- ⑧ 「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際実務英語Ⅰ」に関する調査研究を国内外で開始し、カリキュラム開発や講演者・講師の人選を平成22年度前期までに完了する。
- ⑨ 平成22年度国際キャリア教育プログラムのパンフレット作成を行う。また、メーリングリスト等の整備により広報活動の充実を図る。
- ⑩ 「国際キャリア教育評価委員会」を開催し、事業評価（案）・教育評価（案）をまとめる。
- ⑪ 「国際キャリア教育FD委員会」を開催し、「平成21年度総合報告（案）」及び「平成22年度事業計画（案）」をまとめる。
- ⑫ 「国際キャリア教育会議」を開催し、⑩、⑪の審議・決定を行う。
- ⑬ 平成21年度事業報告書を作成し、参加学生や関係部署に配付する。

「平成21年度調書」に示した事業項目（13項目）において、具体的な学生教育の効果は次の通りである。

- ① 本プログラムの今後の方針や取組内容を決定することにより、学生教育の枠組みが確立する。
- ② 特任教員の採用により、本プログラムの具体的な教育取組を実施する主体（特任教員）が確立する。
- ③ 地域ニーズに応える本格的な国際キャリア教育が開始される。
- ④ 特任教員の3大学への配置により、学生に対する効率的かつ迅速なサポート・指導体制が始動する。
- ⑤ 学生指導や事業・教育評価の体制、特任教員・雇用職員の職務分掌を検討し、学生教育を効率的に行う基盤が確立する。
- ⑥ 学生指導や事業・教育評価の体制、特任教員・雇用職員の職務分掌を、地域の関係者を交えて多面的に検討することにより、学生教育に地域のニーズや観点が反映される。
- ⑦ HP開設により文科省や一般社会への情報発信が可能となり、本プログラムへの学生の広範な参加が可能となる。また、学生指導を記録し効率化するポートフォリオ管

理の導入により、学生個々のキャリア開発支援が実施される。

- ⑧ 「国際キャリア実習Ⅰ」については、カリキュラム、インターンシップ協定、インターンシップ支援体制が整備される。「国際実務英語Ⅰ」については、ディベート、ライティング、会議英語、交渉などの実践的英語教育のカリキュラムが整備される。
- ⑨ 入学時及び他大学向けの広報媒体（パンフレット）が整備される。メーリングリストの整備により、国内外の関係機関や参加学生への情報発信が可能となり、本教育プログラムの広報・普及が促進される。
- ⑩ 事業評価と教育評価のとりまとめにより、教育改善を図り、学生支援に役立てる基本資料が整備される。
- ⑪ 特任教員がFD活動の一環として「平成 21 年度総合報告（案）」及び「平成 22 年度事業計画（案）」をまとめることにより、学生教育の質的向上を図る。
- ⑫ 本プログラムの実施報告や評価、次年度事業計画案を、地域の関係者を交えて多面的に検討することにより、学生教育に地域のニーズや観点が反映させ教育改善に役立てる。
- ⑬ 本プログラムの成果を受講生に認知させることにより、受講生のキャリア意識を高める。

(3) 予算案

「平成 21 年度調書」に記した平成 21 年度の補助事業経費の総額は 28,596 千円であり、その内訳は、補助金（申請額）28,596 千円、自己収入その他 0 千円である。

補助金（申請額）28,596 千円の費目別内訳は、設備備品費 8,880 千円、旅費 1,765 千円、人件費 12,535 千円、事業推進費 5,416 千円である。

補助金（申請額）28,596 千円の大学別内訳は、宇都宮大学 17,853 千円、作新学院大学 5,307 千円、白鷗大学 5,436 千円である。

1-2 平成 22 年度事業案

(1)事業案

「平成 22 年度調書」に示した事業の概要は次の通りである。

本補助事業の目標である、地域の為の国際的人材養成を達成するために「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」の実施に当たっては実行委員会を設置し、とちぎ海浜自然の家と芳賀町・芳賀青年の家を会場として、二泊三日の日程で、「国際キャリア開発基礎」を9月4日から6日まで、「国際実務英語Ⅰ」を9月18日から20日まで、「国際キャリア開発特論」を平成23年2月に順次実施する。「国際キャリア実習Ⅰ」については、実習先との協定を順次結び、夏期と春期を中心に随時実施する。本年度はこれら4科目のカリキュラムを開発し、互いに関連付けて開催することにより、学生の国際キャリア開発を図っていく。

「平成 22 年度調書」に示した事業項目は、次の 20 項目からなる。

- ① 4月平成21年度に採用した特任教員及び事務職員は継続雇用
- ② 4月「国際キャリアFD委員会」を開催し、平成22年度活動方針案を作成
- ③ 5月「国際キャリア教育会議」で平成22年度活動方針の審議・決定
- ④ 5月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を開催
- ⑤ 5月「国際キャリア実習Ⅰ」に関する基礎調査及び国内実習先の開拓
- ⑥ 5月平成22年度開講科目の広報資料を作成し、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学や全国の大学へ参加を依頼する
- ⑦ 6月「国際キャリアFD委員会」企画講演会開催
- ⑧ 7月「国際キャリアFD委員会」企画講演会開催
- ⑨ 9月「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」を開講
- ⑩ 9月キャリア個別相談の開始
- ⑪ 10月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催
- ⑫ 11月「国際キャリア実習Ⅱ」に関して実習先と協定を結ぶ
- ⑬ 11月「国際実務英語Ⅱ」に関して講師の人選を行なう
- ⑭ 11月「国際キャリア教育会議」を開催
- ⑮ 1月「国際キャリアFD委員会」企画講演会開催
- ⑯ 2月「国際キャリア開発特論」開講
- ⑰ 2月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催
- ⑱ 2月「国際キャリア教育FD委員会」の開催
- ⑲ 3月「平成22年度総合報告書」の策定
- ⑳ 3月「国際キャリア教育会議」を開催

「平成 22 年度調書」に示した事業項目（20 項目）の具体的内容は、次の通りである。

- ① 平成 21 年度に採用した特任教員及び事務職員は継続雇用する。
- ② 「国際キャリア FD 委員会」を開催し、本年度開催の 4 科目のカリキュラム実施内容や広報活動など、本年度の活動方針案を作成する。
- ③ 「国際キャリア教育会議」を開催し、本年度の活動方針を協力団体の意見も含め様々な角度から審議し決定する。
- ④ 「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」の実施にあたっては実行委員会を設け、それぞれの科目は各大学の特任教員の担当とする。
- ⑤ 「国際キャリア実習Ⅰ」に関し、3 大学が有する教育研究資源を活かして調査を行ない、国内実習先を選定する。
- ⑥ チラシ等広報資料を作成し、全国の大学等に発送すると共に、県内の大学へは協力教員を通じて参加者を募集する。
- ⑦ 「国際キャリア FD 委員会」は 4 科目のカリキュラムを補完する事業として、3 大学持ち回りの講演会を実施する。
- ⑧ 同上
- ⑨ 「国際キャリア開発基礎」では、国際協力、国際ビジネス、国際理解の 3 分野 8 分科会において、国際的な第一線の実務者を講師陣として招き、講義及びキャリア意識を高めるワークショップを行なう。「国際実務英語Ⅰ」では、1 クラス 10 人前後の 3 分野 6 クラスに分かれ、国際的なコミュニケーションを体験学習させる。それぞれ二泊三日の合宿セミナー形式で行なう。
- ⑩ 3 大学は、履修内容・指導内容を記録するポートフォリオ管理によって学生の個別指導を開始する。
- ⑪ 「国際キャリア教育点検・評価委員会」を開催し、⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の評価及び 22 年度本補助事業全体の中間評価を行う。
- ⑫ 平成 23 年度開講の「国際キャリア実習Ⅱ」に関して、国際協力、国際ビジネス、国際理解の 3 分野で海外実習先との協定締結を順次開始する。
- ⑬ 平成 23 年度開講の「国際実務英語Ⅱ」に関して、国際協力、国際ビジネス、国際理解の 3 分野で講師の人選を行なう。
- ⑭ 「国際キャリア教育会議」を開催し、⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の報告、及び⑪で行なった「国際キャリア教育点検・評価委員会」提案の評価案を審議する。
- ⑮ 「国際キャリア FD 委員会」は 4 科目のカリキュラムを補完する事業として、3 大学持ち回りの講演会を実施する。
- ⑯ 「国際キャリア開発特論」では、国際協力、国際ビジネス、国際理解の 3 分野 6 分科会において、国際的な第一線の実務者を講師陣として招き、専門知識習得やグループ・ディス

カッション、高度な専門実務の模擬体験を取り入れたワークショップを二泊三日の少人数合宿セミナー形式で行なう。

- ⑰ 「国際キャリア教育点検・評価委員会」を開催し、⑯で行なった「国際キャリア開発特論」に関する評価、並びに平成 22 年度本補助事業全体の事業評価及び教育評価を行ない、改善方針を策定する。
- ⑱ 「国際キャリア教育FD委員会」を開催し、⑰で指摘された事項について改善策を作成する。
- ⑲ 一年間の活動を総括し平成 22 年度総合報告書を作成する。
- ⑳ 「国際キャリア教育会議」を開催し、「平成 22 年度総合報告」を審議・決定し、参加学生や関係部署に配付する。

「平成 22 年度調書」に示した事業項目（20 項目）において、具体的な学生教育の効果は次の通りである。

- ① 平成 21 年度に採用した教員を継続雇用することで学生への効率的な教育指導体制がより確立する。
- ② 平成 21 年度の実績を発展させた、地域のニーズに即した国際的な仕事に求められる専門的な知識や能力、英語による国際的なコミュニケーション能力、国際的な実務能力を養成する教育プログラムが提供される。
- ③ 地域等の協力団体の観点を反映し地域のニーズや実情に即した教育プログラムが決定される。
- ④ 実行委員会の開設により組織体制が確立する。また、学生委員を加えることにより、学生のニーズや発想を取り入れた機動力のあるスムーズな運営が図れる。
- ⑤ 3 大学が有する教育研究資源を活かして、実習生のニーズに合致した魅力的な国内実習先が選定される。
- ⑥ 既設のホームページに加え、ポスター・チラシの全国の大学等への配布、メーリングリストの整備によって、本教育プログラムの広報・普及が促進される。また、協力教員を通じてのきめ細かな対応で本プログラムの魅力を直接学生に伝えられる。
- ⑦ 「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア開発特論」の開講に先立ち相乗効果のある講演会を行なうことにより、これら 4 科目履修への関心が高まる。
- ⑧ ⑦と同様
- ⑨ 「国際キャリア開発基礎」では、国際協力、国際ビジネス、国際理解の 3 分野に対する職業観と関心が生まれキャリア意識が高まる。「国際実務英語Ⅰ」では、これら 3 分野の国際的なコミュニケーション能力を高密度の少人数教育により身に付けられる。
- ⑩ 学生指導を記録し効率化するポートフォリオ管理の導入により、学生個々のキャリア開発支援を効率的に行う基盤が確立する。

- ⑪ ⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の評価を行うことで、⑩で行なう「国際キャリア開発特論」や次年度以降の開講科目の学生支援の改善を指摘する。
- ⑫ 国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野の海外実習先を確保することにより、国内実習から海外実習に至る国際分野での一貫した現場実習が経験できる。
- ⑬ 「国際実務英語Ⅱ」を開講する為の講師陣が確定する。
- ⑭ ⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の報告に対する、「国際キャリア教育会議」構成員の多方面にわたる意見によって、⑩で行なう「国際キャリア開発特論」や次年度以降の開講科目への改善に活かし学生教育の充実を図る。
- ⑮ 「国際キャリア開発特論」の開講に先立って、「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅰ」と相乗効果のある講演会を行なうことにより、「国際キャリア開発特論」の教育効果が高まる。
- ⑯ 国際舞台で活躍する講師の指導による少人数のグループ・ディスカッションや高度な専門実務の模擬体験を行なうワークショップを経験することで、受講者は実践的な専門知識と技能を身に付け、キャリア意識がより明確になる。
- ⑰ ⑩で行なった「国際キャリア開発特論」に対する評価並びに平成22年度本補助事業全体の事業評価と教育評価を行ない改善案を作成することで、学生教育に地域ニーズ等を反映させ、教育改善に役立てる。
- ⑱ ⑰で行なった「国際キャリア開発特論」に対する評価並びに平成22年度本補助事業全体の事業評価と教育評価の報告に対する、「国際キャリア教育会議」構成員の多方面にわたる意見によって、次年度以降の開講科目への改善に活かし学生教育の充実を図る
- ⑲ 一年間の事業及び教育活動を受講生及び地域の観点から総括することにより、平成23年度以降のカリキュラムの改善策をまとめる。
- ⑳ ⑰で行なった事業評価と教育評価を含む平成22年度総合報告書を審議、決定する。平成22年度総合報告書の刊行と配布により、本プログラムの成果を受講生が認知し、受講生のキャリア意識が高まる。また、受講生及び地域の観点から総括された改善策が平成23年度以降のカリキュラムに反映される。

(2) 予算案

「平成22年度調書」に記した平成22年度の補助事業経費の総額は36,709千円であり、その内訳は、補助金（申請額）36,709千円、自己収入その他0千円である。

補助金（申請額36,709千円）の費目別内訳は、旅費4,271千円、人件費28,604千円、事業推進費3,834千円である。

補助金（申請額）36,709千円の大学別内訳は、宇都宮大学19,512千円、作新学院大学9,117千円、白鷗大学8,080千円である。

1-3 平成 23 年度事業案

(1) 事業案

「平成 22 年度調書」に示した事業の概要は次の通りである。

本補助事業の目標である、地域の為の国際的人材養成を達成するために「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の実行委員会を設置し、芳賀町・芳賀青年の家、とちぎ海浜自然の家などを会場として、二泊三日あるいは三泊四日の日程で夏期と冬期に順次開講する。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」については、協定を締結した企業・公的機関・NPO/NGOの中から学生が実習先を選択して、随時実施する。「国際キャリア実習Ⅱ」については、初の海外インターンシップであるため、実習先によっては特任教員等による臨地指導を行う。本年度はこれら 6 科目がすべて開講されるが、本プログラムの成果や課題を総括し、総合報告書をまとめる。

「平成 23 年度調書」に示した事業項目は、次の 14 項目からなる。

- ① 平成23年度に本取組は完成年度を迎える。「国際実務英語Ⅱ」及び「国際キャリア実習Ⅱ」（海外インターンシップ）が開講される。特任教員及び事務職員は継続雇用する。
- ② 「国際キャリアFD委員会」を開催し、平成23年度活動方針案を作成
- ③ 「国際キャリア教育会議」で平成23年度活動方針の審議・決定
- ④ 「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を開催
- ⑤ 平成23年度プログラムのパンフレット作成、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学、全国の大学への広報と参加依頼
- ⑥ 「国際キャリア実習Ⅱ」に関する海外実習先の確定
- ⑦ 教科書刊行の計画策定
- ⑧ 「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を開講。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」は随時開講
- ⑨ 本プログラムの見直し、本プログラムのマニュアル整備に着手
- ⑩ 「国際キャリア開発特論」を開講
- ⑪ 「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催（事業評価、教育評価）
- ⑫ 「平成23年度総合報告」を「国際キャリア教育会議」で審議・決定
- ⑬ 教科書の刊行
- ⑭ 総合報告書の作成

「平成 23 年度調書」に示した事業項目（14 項目）の具体的内容は、次の通りである。

- ① 「国際実務英語Ⅱ」に関しては、4月から国際協力、国際ビジネス、国際理解の分野で講師の人選を開始し、授業の構成、分科会のテーマなどを決定し、6月から学生参加者募集を開始する。「国際キャリア実習Ⅱ」に関しては、国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野

で海外実習先（アジア、アフリカ、北南米、ヨーロッパ 15 カ国における NGO や企業、自治体、教育機関等）との協定締結を順次開始する（平成 22 年度までの特任教員や協力教員等の海外出張により、JTB カナダ（カナダ）や大連中山大酒店（中国）、PRRM、GK、Batis（フィリピン）、LUMANTI、CONCERN、マナブ養護学校（ネパール）など実習先の開拓は概ね終了している）。また、事前研修や実習内容の詳細などを決定し、学生派遣の態勢を整える。

- ② 4 月「国際キャリア FD 委員会」を開催し、特任教員・協力教員が平成 23 年度活動方針案を点検する。
- ③ 5 月「国際キャリア教育会議」で平成 23 年度活動方針を審議・決定する。プログラム運営における重要項目を協力機関の参加により、客観的視点から評価検討、採択する。また、各プログラムの内容に関して助言を受け、プログラム運営に反映する。「国際キャリア実習Ⅰ、Ⅱ」に関しては、引き続きインターンシップの新たな受け入れ先を紹介してもらい、「国際キャリア教育会議」委員との連携を強固にする。
- ④ 5 月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を開催する。この実行委員会は、すでに「国際キャリア合宿セミナー」（「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」）に参加した学生を中心に構成し、協力機関・協力教員を加える。学生主体の実行委員会を組織することで、「国際キャリア合宿セミナー」への学生の主体的参加を促し、学生自身の企画運営能力向上を目指す。また、学生実行委員主体の検討を重ねることにより、「国際キャリア合宿セミナー」の企画運営に学生のニーズを反映させる。
- ⑤ 5 月に平成 23 年度プログラムのパンフレットを作成し、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学や全国の大学への広報と参加依頼を行う。平成 22 年度までの経験から、広報活動は国際系学部のある大学に限定せず、より多様なバックグラウンドを持つ学生の参加を促す。また、「国際キャリア合宿セミナー」に参加経験のある学生が、直接プログラムを広報する説明会を実施する。
- ⑥ 5 月「国際キャリア実習Ⅱ」における海外インターンシップ先を確定する。インターンシップに同意した実習先とは、順次、同意書を取り交わし、実習実施に向けた具体的な日程・内容の調整を行う。
- ⑦ 「国際キャリア合宿セミナー」の分科会の内容、各講師のキャリアパス、インターンシップでの留意点等をまとめた教科書刊行を計画し、3 月までに刊行する。
- ⑧ 9 月「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を開講する。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」は主に夏・冬の休業期間に行うが、4 月からの受講も可能とする。開講実績のある「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際実務英語Ⅰ」に関しては、参加者のアンケートや「国際キャリア教育会議」での評価を内容に反映させて、授業内容の一層の向上を図る。「国際キャリア実習Ⅱ」に関しては、参加学生個々の希望を考慮して、アジア、アフリカ、北南米、ヨーロッパのインターンシップ先（NGO、企業、自治体、教育機関等）と派遣時期やインターンシップ内容を順次具体化し実施する。安全管

理が必要な地域や更に詳細な調整が必要な実習先に関しては、随時、臨地指導をまじえる。

- ⑨ 10月に本プログラムの見直しと本プログラムのマニュアル整備に着手する。マニュアルには、プログラム実施により積み重ねてきた継続的な取り組みを可能にするノウハウを分かりやすくまとめる。マニュアル作成では、「国際キャリア合宿セミナー」の講師陣や協力教員・公的機関の助言を得る。
- ⑩ 1月に「国際キャリア開発特論」を開講する。国際分野の実務者を講師として招く分科会では、キャリア向上に必須の問題解決、ロジカル・シンキング、プレゼンテーションの能力向上を目指す。また、運営の権限をこれまで以上に学生に移譲する。
- ⑪ 2月「国際キャリア教育点検・評価委員会」を開催し、事業評価及び教育評価を実施する。これにより、本プログラムの学生へのインパクトなど、「国際キャリア開発プログラム」の成果を検証し、次年度以降の運営に活かす。
- ⑫ 3月に「平成23年度総合報告(案)」を「国際キャリア教育会議」で審議・決定する。
- ⑬ 平成22年度までの「国際キャリア開発プログラム」の内容や実績をもとに、国際キャリア教育の指針となる教科書を作成する。
- ⑭ 平成23年度に実施した「国際キャリア合宿セミナー」、国内外インターンシップ、講演会、研修会、ミニ合宿、教科書編纂等の実績を総合報告書にまとめる。

「平成23年度調書」に示した事業項目(14項目)において、具体的な学生教育の効果は次の通りである。

- ① 「国際実務英語Ⅱ」に関しては、理論だけでなく現場での経験談ができる国際3分野の第一線で活躍する人材を講師陣に迎える。それにより、学生は実用的な英語コミュニケーション能力や国際的課題解決能力の向上を図ることができる。「国際キャリア実習Ⅱ」に関しては、実習先と実習生とのマッチングを図ることにより、学生の国際的視野を高めるとともに、実務体験を積むことで自己の適性を知ることができる。
- ② 4月「国際キャリアFD委員会」の実施に先立ち、学生実行委員会にも平成23年度活動方針案の検討を依頼する。これにより、学生のニーズを汲み上げ企画に反映することで、本プログラムの教育内容が改善される。(学生実行委員は自らファシリテータを引き受けるなど、積極的で意識の高い者が多く、本プログラムの内容を熟知し提案能力がある。)
- ③ 5月の「国際キャリア教育会議」では、平成23年度の合宿セミナーの内容を審議し改善点を提案する。これにより、今年度初めて開催される「国際実務英語Ⅱ」や「国際キャリア実習Ⅱ」では、より学生の能力やニーズにあったプログラムを提供できる。訪問国の情報を収集せず海外に行く学生が多数いるため、「国際キャリア開発基礎」ではJICAの協力で海外安全管理教育を実施する。これにより、学生の海外安全管理能力が高まり、「国際キャリア実習Ⅱ」の履修が容易となる。
- ④ 学生主体の「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を組織し、協力機関・協力教員の指

導を受けて運営する。「国際キャリア合宿セミナー」の企画運営に係わる学生の中から、毎年優秀なファシリテータが養成される。学生参加による学生ニーズの反映とファシリテータ養成により、「国際キャリア合宿セミナー」の内容が充実し、国際キャリア形成への参加者のモチベーションが高まる。

- ⑤ 国際キャリアに固い、かつ遠いイメージを抱く学生がいることが過去の経験から確認されたので、多様で柔軟な広報活動でこうした偏見を解消する。こうした広報努力で、国際系学部のみならず医学、教育、政治経済学などの多様な学生が参加しやすくなり、学生は、グローバル時代の現在、どの学問分野でも国際キャリア形成の視点が必要であることを学ぶ。
- ⑥ 3大学の特色を生かした海外実習先の開拓により、学生は多様な組織・機関の中から実習先を選択できる。実習先の国の政情や治安は大変流動的な場合もあるため、最新情報の提供で、参加する学生はより安全に履修できる。また、個々の学生の要望を踏まえた実習先との具体的調整により、学生は自己のニーズや関心に合った実習を経験できる。
- ⑦ 「国際キャリア合宿セミナー」の分科会の内容や各講師のキャリアパス、インターンシップの心得等をまとめた教科書の刊行により、学生は自己のキャリア形成を考える参考にできる。全国の学生も国際キャリア教育の概念、内容、指針を学ぶことができる。
- ⑧ 「国際キャリア実習Ⅰ」と「国際キャリア実習Ⅱ」は休業期間のみに行う計画であったが、平成23年度は4月から通年開講する。学生は、自己のニーズや都合に合わせて、休業期間に実施したり、前期あるいは後期に週数回インターンシップを実施することもできる。「国際キャリア実習Ⅱ」では、実習先によっては、臨地指導を受けることが出来るため、履修が容易になる。
- ⑨ マニュアルは学生実行委員会と調整しながら作成する。マニュアル作成によって、学生は、「国際キャリア合宿セミナー」の企画・調整・運営のノウハウを先輩から学ぶ。
- ⑩ 「国際キャリア開発特論」は、他の大学行事などの日程上の都合から2泊3日に短縮して1月に開催する。「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」では、企画運営の権限をこれまで以上に学生に移譲する。権限の委譲とマニュアル作成により、「国際キャリア合宿セミナー」の企画運営に学生の要望が反映される。
- ⑪ 外部からの客観的評価と「国際キャリア教育点検・評価委員会」への学生実行委員の参加により、事業の教育効果が学生および地域の視点からより明確になる。これにより、学生は、次年度以降、より教育効果の高いプログラムを受講できる。
- ⑫ 本プログラムの最終年度であるために、3年間の総合的な成果を発表する一般公開セミナーを開催する。これにより、「国際キャリア合宿セミナー」の参加学生は自己のキャリア形成の状況を点検し、一般学生は国際キャリア教育の概念・内容・指針を学ぶことで国際キャリア教育の意義を認識する。
- ⑬ これまで教育効果の観点から、学生の複数の分科会出席は認めてこなかった。しかし、「国際キャリア合宿セミナー」参加者の感想文を見ると、複数の分科会への出席を希望する意見

が多い。「国際キャリア合宿セミナー」で、これまでに講師から集めた資料類をまとめて教科書を刊行することにより、学生は、参加できなかった分科会の内容と講師のキャリアパスを学ぶことができる。

- ⑭ 一年間の事業及び教育活動を、受講生や学生実行委員、地域の観点から総括することにより、平成 24 年度以降のカリキュラム改善に反映できる。

(2) 予算案

「平成 23 年度調書」に記した平成 23 年度の補助事業経費の総額は 36,285 千円であり、その内訳は、補助金（申請予定額）36,285 千円、自己収入その他 0 千円である。

補助金（申請予定額 36,285 千円の費目別内訳は、旅費 3,169 千円、人件費 28,971 千円、事業推進費 4,145 千円である。

補助金（申請予定額）36,285 千円の大学別内訳は、宇都宮大学 20,463 千円、作新学院大学 8,395 千円、白鷗大学 7,427 千円である。

2. 事業の実施

「国際キャリア開発プログラム」の開講にあたって

宇都宮大学理事・副学長 渡邊直樹

平成 21 年度後期から開始された本取組「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」は、将来、国際社会において自分の能力を活かしたいと考える学生にそのために必要な国際キャリアパスを保証する教育プログラムです。栃木県内の 3 大学、白鷗大学・作新学院大学・宇都宮大学の連携と国際医療福祉大学やその他国際交流団体等の協力の下で行われています。本取組はここに 2 年目を迎え、国際社会で活躍されている方々の体験に基づく専門的かつ実際の授業科目「国際キャリア開発基礎・特論」、「国際実務英語 I」及び学生の実習科目である「国際キャリア実習 I」が開講され、いよいよ本格的に学生に国際的キャリアパスを保証する学修プログラムが開始されることになりました。

合宿で行われる質の高い集中的な授業と国内外で実施されるインターンシップ体験は、学生の皆さんにとって国際社会において活動するための前提条件といえます。9月に茨城県鉾田市にある「栃木県立とちぎ海浜自然の家」で実施された「国際キャリア開発基礎」には、3 連携大学の学生を初め、全国各地から合計約 130 名が参加されました。また、講師の方々はそれぞれ国際社会においてご活躍中であり、ご多忙のなかこのプログラムのために時間を割いて参集くださいました。学生は、これら多様な経歴を有する方々による多様な講義に熱心に耳を傾け、自らの将来のために必要なキャリアに関して十分な情報を得ることができたと考えます。

平成 22 年 9 月下旬には「国際実務英語 I」が、各界の代表者と外国人を招待して「栃木県芳賀青年の家」において 2 泊 3 日の合宿形式にて開催されました。3 連携大学と全国から集まった約 54 名の参加者は、それぞれ多様なプログラムの中から自分の将来のキャリア獲得に相応しいと考える授業に参加していました。これらの講義はほとんど英語のみで行われたにもかかわらず、学生は集中力をもってこれに臨み、疑問点に関して積極的にねばり強く質問し、また学生同士で議論を重ねるなど真剣に取り組んでいました。最終的には、課題に対するレポートを慣れない英語で作成するため、夜遅くまで机に向かっていた学生もいたようです。その完成後は、学生は一様に安堵感と満足感に満たされた表情をしていた、と講師の先生方からは伺っております。「合宿の日数がもう一日欲しかった」という多くの学生の声は、このプログラムの内容の豊かさと稠密さを評価したものといえます。

平成 23 年 2 月には、同じ「栃木県芳賀青年の家」において、「国際キャリア開発基礎」の発展型である「国際キャリア開発特論」（3 泊 4 日の合宿）が開催され、全国から 76 人の学生が参加しました。問題解決力を身につけることが目的であった本合宿では、「国際キャリア開発基

礎」や「国際実務英語 I」以上に白熱した議論が繰り広げられました。また、夏休み等の長期休暇を利用する「国際キャリア実習 I」（インターンシップ）もすでに開講されています。現在のところ 17 名が登録し、すでに修了者もおりますが課題もあります。この実習に参加する学生の旅費に係る援助は本取組の予算要求の対象外となっており、このことは学生にとって大きな負担となることは申し上げるまでもありません。学生のみなさんの奮起頑張りに期待する他ありません。

とまれ、本取組関係者及びご協力いただいている団体に改めて感謝の意を表しますとともに、学生の皆さんにはこのプログラムによって獲得した学修成果が将来の国際キャリアパスへの礎となることを祈念してご挨拶いたします。

2-1 国際キャリア合宿セミナー

(1) 国際キャリア開発基礎

国際キャリア開発基礎の運営は宇都宮大学が主担当であった。今年度で第7回目を迎える本セミナーは、国際協力や国際交流に関心を持ち、国際機関や国際交流団体、あるいは世界を舞台に活動するNGOや企業などで活躍したいと考える若者たちに、そうした仕事に関する正しい知識と、そこで求められる能力、そこにいたる具体的な道筋（キャリア形成）について学ぶ機会を提供してきた。

本年は、平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された初年度であり、これまでの成功を土台に、栃木県・JICA等からの引き続きの支援に加え、作新学院大学・白鷗大学・国際医療福祉大学からの組織的な協力を得て、宇都宮大学の学生をはじめ、広く栃木県内外の学生・青年、社会人の参加を得ている。

セミナー初日は海外で働く楽しさや思考術について参加型方式で学び、各界の第一線で活躍されている講師に、それぞれの仕事について体験に基づいてお話しいただいた。2日目は、海外インターン、留学や旅行中に、リスク・マネジメントができるように、本セミナーには初めて「海外安全管理」の講義を導入した。テーマ別の分科会では、講師が各分野における仕事の内容、やりがいと問題点、求められる資質・能力、専門知識について話した。3日目の各分科会での学びの成果とアクションプランが発表された。

なお、セミナーの概要は次の通りである。

・開催スケジュール

1日目（9月4日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
10:45-11:30	開講式・オリエンテーション	13:15-16:15	全体講義「世界を舞台に活躍する思考術～ココロ変われば世界が変わる！」 講師：羽根拓也氏
11:30-12:30	全体講義「世界を舞台に活躍する思考術 ～ココロ変われば世界が変わる！」 講師：羽根拓也氏 (株)アクティブラーニング	16:30-18:00	各分科会の講師の講義の紹介
12:30-13:15	昼食	18:30-21:00	夕食・交流会・フリートーク

2日目(9月5日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:00-10:00	全体講義「海外安全管理」 講師:内田昭男氏 JICA 総務部安全管理室	13:00-16:00	分科会
10:10-12:00	分科会	18:30-19:30	夕食
12:00-13:00	昼食	19:30-21:00	分科会全体発表準備

3日目(9月6日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:00-12:20	分科会全体発表(分科会ごと)	13:10-14:10	総括
12:20-13:10	昼食	14:20-14:35	閉講式

・講義及び講師、分科会

	講義内容・分科会	講師	ファシリテーター
A	人道支援	高嶋 由美子 (国連 UNHCR 協会 事務局長)	秋元 明日香 捧 純也 川島 正恵 柿崎 朋子 高島 あゆみ
B	環境と地域づくり	壽賀 一仁 (あいあいネット 理事)	佐川 想 逸見 栞 望月 悠平
C	障がい者を取り込んだ地域開発	石井 博之 (国際医療福祉大学 理学療法学科講師)	秋田 裕介 佐藤 杏子
D	コミュニティー開発とボランティア	眞貝 沙羅 (白鷗大学 教育学部 特任講師)	遠藤 宗之介 鳴瀬 貴子
E	日本語教育	村上 吉文 (国際交流基金日本語教育上級専門家)	似内 竜介 劉 禹君
F	ジャーナリズムと平和	大崎 敦司 (ジャーナリスト/津田塾大学講師/「SAMA FA」主宰)	井上 良 江連 祐希 佐藤 康平
G	観光とまちづくり	大野 邦雄 (作新学院大学 経営学部 特任教授)	古田土 陽介 張 欣
H	開発輸入ビジネス	佐々木 敏行 (株式会社 FAR EAST 代表取締役)	小笠原 睦月 中條 玲 中島 久雄 横尾 知香
I	国際経営コンサルタント	池田 栄治 (株)富士ゼロックス総合教育研究所 コンサルティング統括部 シニアコンサルタント)	斉藤 弘貴 青木 未来

・参加者内訳(合計 130 名:女性 90 名、男性 40 名)

宇都宮大学	50 名	成蹊大学	1 名	共愛学園前橋国際大学	8 名
白鷗大学	43 名	津田塾大学	1 名	桜美林大学	1 名
作新学院大学	6 名	東京工業大学	1 名	専修大学	2 名
国際医療福祉大学	4 名	同志社大学	1 名	中央大学	1 名
自治医科大学	2 名	徳島大学	1 名	東京外国語大学	1 名
国際基督教大学	1 名	広島大学	1 名	東北大学	1 名
静岡県立大学	1 名	横浜市立大学	1 名	立教大学	1 名
獨協大学	1 名			合計	130 名

・学年別参加者内訳

学年		学年	
1 年	33 名	大学院	1 名
2 年	24 名	その他	3 名
3 年	49 名	計	130 名
4 年	20 名		

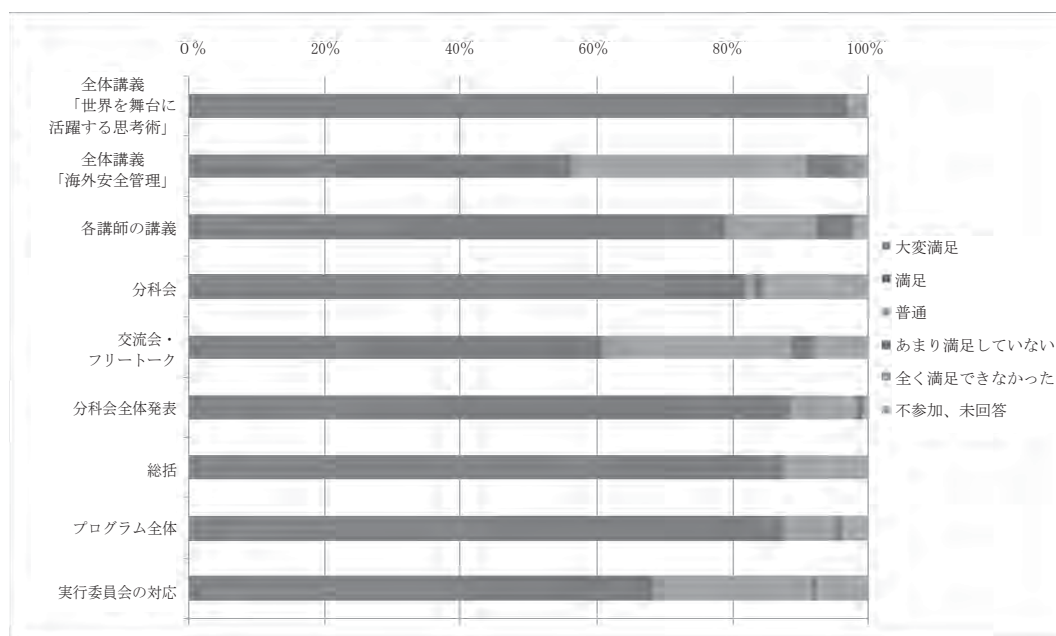
・参加者の感想

キャリアに対する自分の意識が大きく変わりました。いかに自分と向き合い将来を考えられるかがとても重要であり、なるべくはやく行動に移し、自分の可能性を最大限に信じて、どんどん挑戦していきたいと感じました。(宇都宮大学 1 年生)

・参加者アンケートの結果

当セミナーの参加者に対して 3 日間それぞれアンケート調査を行った。参加者 130 名のうち、有効回答数の平均は 94 名 (有効回答率 72%) であった。

また、自由記述式の項目では、様々な分科会の講義を聞けることの満足度に加え、学ぶ姿勢や自己分析能力の向上について積極的な意見が聞かれた。



(2) 国際実務英語 I

「国際実務英語 I」の運営は白鷗大学が主担当となり、国際社会で活躍する人材養成に向けて国際キャリア教育を英語で実践する新規科目である。国際舞台では、英語などの外国語をツールとして様々な背景を持つ人々と関係を築きながら仕事をしていく必要がある。本合宿セミナーでは「英語を」学ぶのではなく、「英語で」国際分野の知識を学びながら、国際人として不可欠なコミュニケーション能力を高めることが目的とされた。本合宿セミナーでは白鷗大学の学生をはじめ広く栃木県内外の学部生や大学院生、合計 54 名の参加を得た。

セミナー初日は各界の第一線で活躍されている講師に、それぞれの仕事について体験に基づいて英語でお話しいただいた。また、ワークショップ形式で英語を学ぶ楽しさや効率的に英語を身につけるためのスキルを学ぶ場を設けた。2 日目は、テーマ別分科会では各講師が各分野における仕事の内容、やりがいと問題点、求められる資質・能力、専門知識について話した。中間発表会や教員の指導で学生の英語でのプレゼンテーション能力の向上を目指した。3 日目は、参加者による英語でのプレゼンテーションが用意され、学びの成果やアクションプランが発表された。英語レベルの違いを補うために、比較的英語に自信がある学生や留学生の参加も積極的に促進され、T. A やファシリテーターなどとしてサポート役を務めた。

なお、セミナーの概要は次の通りである。

・開催スケジュール

1 日目 (September 18th)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
10:20-11:00	開講式・オリエンテーション	16:20-17:20	分科会の講師による講義の紹介
11:00-11:50	全体講義・前半 ”Skills of Learning Foreign Languages” 講師:羽根拓也氏 (株)アクティブラーニング	17:30-18:30	夕食
12:00-13:00	昼食 (学生インターンシップ報告)	18:30-19:00	ファシリテーターと講師打合せ
13:00-16:10	全体講義・後半 ”Skills of Learning Foreign Languages” 講師:羽根拓也氏	19:00-21:00	交流会

2 日目 (September 19th)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
7:30-8:30	朝食	16:00-17:20	発表準備
8:30-10:00	全体講義 ”Useful Expressions in Group Discussion and esentation” 講師:レベッカ・メイス氏	17:30-18:30	夕食
10:00-11:50	分科会 (適宜休憩)	18:30-19:30	中間発表
12:00-13:00	昼食	19:00-21:00	発表準備
13:00-16:00	分科会		

3 日目 (September 20th)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
7:30-8:30	朝食	12:00-13:00	昼食
8:30-9:30	発表準備	13:00-14:00	総括
9:30-11:50	全体発表	14:00-14:20	閉講式(終了証授与)

・講義及び講師、分科会

	講義・分科会	講師	ファシリテーター
A	人道支援と平和構築 Humanitarian Aid and Peacebuilding	米川 正子 (宇都宮大学 国際学部 特任准教授)	秋元明日香 遠藤宗之介 仲松ミゲル 望月悠平
B	メディアと平和教育 Media and Peace Education	アルビー・シャープ (立命館大学 准教授)	井関恵 何 美琪 川上あい
C	食糧安全保障と農業 Food security and Agriculture	ティモシー・アパウ (学校法人アジア学院 コミュニティライフコーディネーター)	上田ミアンナオミ
D	異文化コミュニケーションと訪日観光 Cross-Cultural Communication for Inbound Tourism	高宮 暖子 (社団法人日本観光通 訳協会 常務理事)	小菅美樹 笹本芽郁 劉禹君
E	ビジネスにおけるコミュニケーション Business Communication	蓮見 仁美 (Pacific Soybean & Grain 日本連絡事務所代表)	小笠原睦月 金鐘相 趙美慧

・参加者内訳 (合計54名:女性 43名、男性 11名)

宇都宮大学	27名	足利工業大学	1名	宮崎大学	1名
白鷗大学	14名	立教大学	1名	社会人	1名
共愛学園前橋国際大学	4名	国際医療福祉大学	1名	その他	1名
岩手県立大学盛岡短期大学	2名	東京大学大学院	1名	合計	54名

・学年別参加者内訳

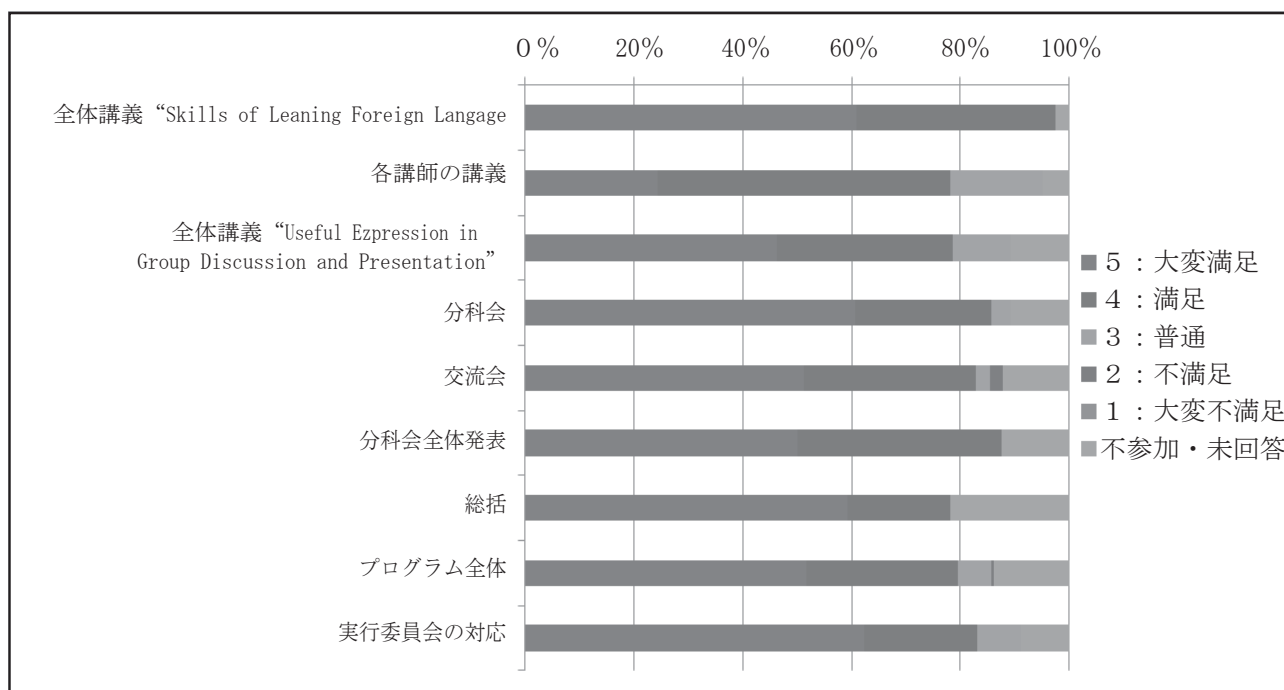
学年	
1年	24名
2年	13名
3年	9名
4年	5名
その他	3名
計	54名

・参加者の感想

I learned many things from this program and I met many people who were shining. I learned how to communicate with the people from foreign countries. It was easy. I did not know how English was useful for us. I realized that English was the real global language. English can make a link together, make us friend, and it has a big power giving us courage.
(白鷗大学 3年)

・参加者アンケートの結果

合宿中アンケートを実施した結果、7~8割近い参加者が全てのプログラムに「大変満足」または「満足」と応えている。実務経験豊かな講師、学生参加型の全体講義と分科会、他大学の学生や講師との人的ネットワーク構築が高い満足度に繋がったようである。



(3)国際キャリア開発特論

本セミナーは、9月に開催した「国際キャリア開発基礎」の発展型として、国際的な分野で仕事をするための問題解決能力の向上に向け、第一線で活躍する講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、仕事への姿勢を学び、国際キャリアの具体化を目指すことを目的としている。本セミナーは従来の2泊3日から3泊4日と1日延期したのは、学生同士の議論や交流を深めたいという学生からの強い要望があったためである。

本セミナーの初日は自分のキャリアについて論理的に考える場を設け、学生リーダー自身の人生について紙芝居を通して共有してもらった。2日目はリスクの状況把握、国の危険度に関する情報収集と分析について学び、テーマ別の分科会では各分野が抱える問題について議論をした。各分科会による中間発表では学生や教員からの意見をもとに、最終発表が改正され、最終日にはそれぞれの分科会が学びの成果と社会への提案が発表された。

なお、セミナーの概要は次の通りである。

・開催スケジュール

1日目（2月16日）

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
10:20-11:00	開講式・オリエンテーション(挨拶、プログラム説明)	13:00-18:00	全体講義「国際開発分野でのビジョン実現プロジェクト」 講師:立山桂司 適材適所 LLC 代表
11:00-12:00	アイスブレイク ファシリテーター:NPO カタリバ	18:00-19:00	夕食
12:00-13:00	昼食	19:00-21:00	学生トークライブ(学生の国際キャリアに関するプレゼンテーション) ファシリテーター:NPO カタリバ

2日目(2月17日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:40-10:10	全体講義「安全管理とリスクマネジメント」飯村学氏 JICA アフリカ部中西部アフリカ第二課長	14:10-15:00	ファシリテーター打合せ
10:10-12:10	各分科会の講師による講義の紹介	15:00-18:00	分科会
12:10-13:10	昼食	18:00-19:00	夕食
13:10-14:10	講師とのフリートーク	19:00-21:00	交流会

3日目(2月18日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:00-12:00	分科会	16:00-17:30	中間発表
12:00-13:00	昼食	17:30-18:30	夕食
13:00-16:00	分科会発表準備	18:30-20:00	分科会発表準備

4日目(2月19日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
16:00-17:30	全体発表(グループごと)	12:30-13:30	昼食・反省会
11:30-12:30	総括 / レポート作成とキャリア開発	13:30-14:00	閉講式

・講義及び講師、分科会

	講義・分科会	参加講師	ファシリテーター
A	援助と人権保障	米川 正子 (宇都宮大学 国際学部 特任准教授)	秋元 明日香 捧 純也
B	ミレニアム開発目標とジェンダー	大崎 麻子 (開発政策・ ジェンダー専門家)	川島 正恵 佐藤 康平 望月 悠平
C	平和学・紛争転換・非暴力介入	奥本 京子 (大阪女学院大学 国際・英語学部 准教授)	福島 敬広
D	文化と開発援助	豊田 雅朝 (開発コンサルタント)	佐川 想 笹本 芽郁
E	外国人観光客増加に向けた 戦略策定	中島 洋行 (作新学院大学 経営学部 准教授)	中嶋 陽平
F	HIV/エイズと社会的キャンペーン	吉田 智子 (サンスター株式会社 広報 室)	江連 祐希 劉 禹君
G	アート活動を通じた森林保全	水谷 伸吉 (一般社団法人 more trees 事務局長)	赤坂 優実
H	相手目線の国際協力へ向けて	白川 千尋 (国立民族学博物館 先端 人類科学研究部 准教授)	青木 未来 秋田 裕介 白木 隆司 関 龍

・参加者内訳(合計 76 名:女性 45 名、男性 31 名)

宇都宮大学	30 名	横浜国立大学	2 名	青山学院大学	1 名
白鷗大学	15 名	共愛学園前橋国際大学	2 名	愛知教育大学	1 名
作新学院大学	6 名	首都大学東京	1 名	下関市立大学	1 名
国際医療福祉大学	1 名	学習院大学	1 名	香川大学	1 名
北海道大学	3 名	小樽商科大学	1 名	専修大学	1 名
神田外語大学	2 名	獨協大学	1 名	国際教養大学	1 名
静岡県立大学	2 名	東京理科大学	1 名		
津田塾大学	2 名			合計	76 名

・学年別参加者内訳

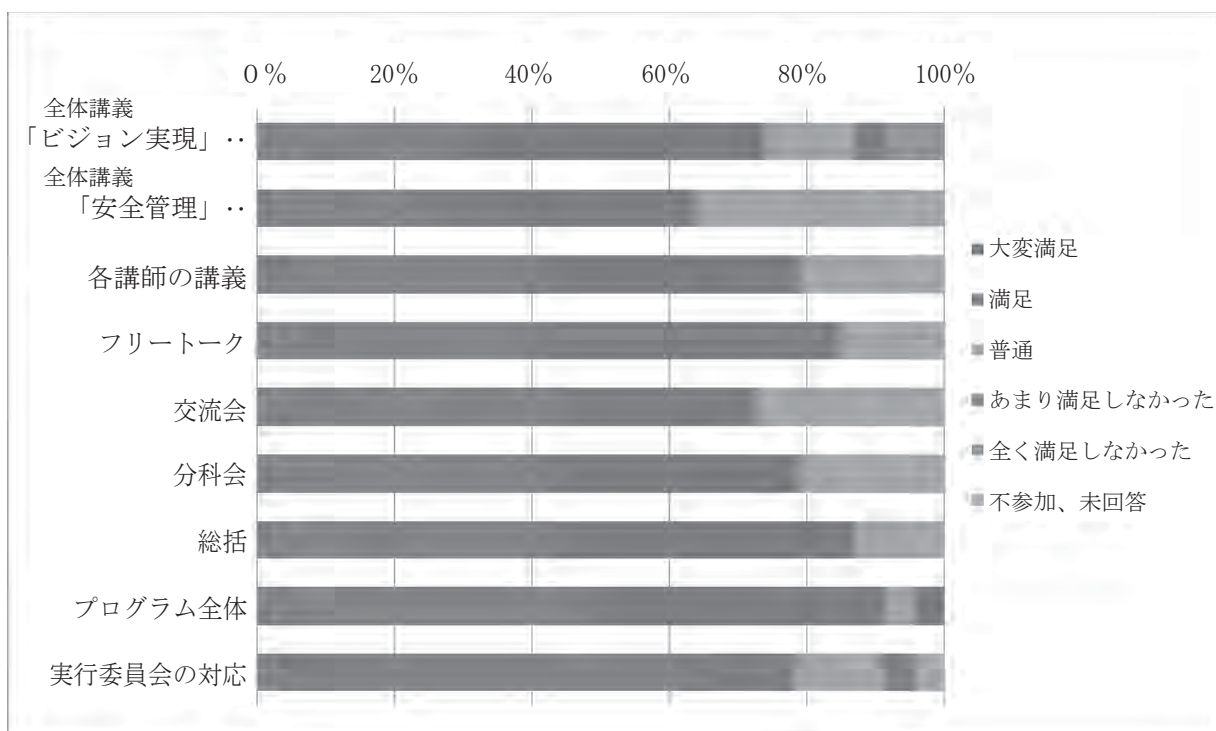
学年		学年	
1年	28名	3年	20名
2年	21名	4年	5名
		その他	2名
		合計	76名

・参加者の感想

抽象的だった単なる夢を、より具体的に、より現実的に、考えられるようになった。今まで、理想であって自分には無理だと思っていたことも、人生における大きなビジョンとしてロジカルに筋道をたてることで、説得力が生まれ、自分にとっても、周りにとっても、納得できるものとなる。私には、論理的に考える力が足りなかったし、きちんと考える機会もなかったなので、今回の講義では大きな収穫であると思う。(宇都宮大学1年生)

・参加者アンケートの結果

当セミナーの参加者に対して4日間それぞれアンケート調査を行った。参加者76名のうち、有効回答数の平均は28名(有効回答率37%)であった。また、自由記述式の項目では、専門知識を学ぶとともに、議論をすることでより知識を深めることができたという意見が聞かれた。



2-2 国際キャリア実習

(1) 国際キャリア実習 I

国際キャリア実習 I では、学生が将来国際協力、国際ビジネス・観光まちづくりや国際交流活動などで活躍することを目指し、国内の企業、NGO、公的機関、地方自治体、国際機関などでの実習経験（インターンシップ）を積むことで、各分野への理解を深めると同時に、実務能力を高めることを目的とする。

実習対象者は宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学の 3 大学生に限られ、これは受入先が海外の実習 II も同様である。

開講時期は春・夏の長期休暇など随時で、実習時間 80 時間以上の条件を満たせば大学コンソーシアムとちぎの公開講座として 2 単位が付与される。

平成 22 年度からスタートして、初年度の履修実績としては 15 名、16 か所となる。

表 1-1 には分野別の受入先数と履修実績を、表 1-2 には受入先名と概要を示す。

・国内インターンシップ受け入れ先数

表1-1

分 野	箇所数
国際協力	14
国際ビジネス	3
観光まちづくり	5
国際理解	4
団体・機関・企業数 合計	26

・履修実績

那須烏山市観光協会	3 人
NPO法人自然塾寺子屋	2 人
NPO法人JEN	1 人
宇都宮市国際交流協会	1 人
JICA地球ひろば	1 人
AHV	1 人
栃木県国際交流協会	3 人
十日町市地球おこし実行委員会	1 人
小山市国際交流協会	1 人
株上原園	1 人
国際キャリア開発プログラム	1 人
合 計	15 人

表1-2

【国際キャリア実習 I 受入先一覧表】(国内)

No.	分野	受け入れ先	場所	テーマ・活動内容
1	観光まちづくり	(合)福田製紙所	栃木県那須烏山市	和紙緞の体験と、和紙を用いたペーパーアートを実習
2	観光まちづくり	AHV(アーティストホームヴィレッジ)	栃木県壬生町	国際コンクール日本予選の企画立案やコンクールの運営補助。カザフスタンではコンクール本選での日本からの参加者のアテンドや文化施設を視察する。
3	観光まちづくり	那須烏山市観光協会	栃木県那須烏山市	市の歴史や観光資源を学び、伝統工芸の体験やタウンウォッチングを通じて観光隆盛を提言する
4	観光まちづくり	那須烏山市商工観光課	栃木県那須烏山市	各職場の実務体験、並びに、観光隆盛のテーマに対して企画・立案を行なうことで観光行政の一端を経験する
5	観光まちづくり	㈱JTB関東 法人営業宇都宮支店	栃木県宇都宮市	実習内容：①大学マーケットの旅行市場調査、②大学マーケットの新規ツアープランの作成、③資料整理、工法業務補助、データ入力、etc実習期間：2011年8月1日～12日(10日間(80時間)) 受入人数：2～4名
6	国際協力	十日町地域おこし委員会/JEN(ジェン)	新潟県・十日町市池谷	村おこし、農業、食の安全保障、都市化、高齢化、自然との共生、草狩り、稲刈り、雪かき、盆踊り企画(地域おこしに関する調査や研究も可能)
7	国際協力	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	東京都・渋谷区	難民に関する宣伝活動、イベント会場マネジメント、その他の職員のアシスト業務
8	国際協力	JEN(ジェン)	東京都・新宿区	宣伝活動、イベント会場マネジメント、その他の職員のアシスト業務
9	国際協力	NPO法人自然塾寺子屋	群馬県・甘楽郡	地域活性化、農村開発、農業、青年海外協力隊：1) 地域活性化事業①農家ネットワーク組織と連携した農業活性化イベント(農活プロジェクト)の企画・広報・運営等のコーディネート、事務全般。 ②地域ブランドの普及イベントの企画・運営。地域ブランド商品マーケティング、イベント出店企画・運営の補助等。 2) 青年海外協力隊研修事業 ①農村開発研修のサブ・コーディネーターとしてスケジュール管理、研修所の運営、事務等、研修の運営、管理の補助等。
10	国際協力	学校法人アジア学院	栃木県那須烏山市	食と農、共生社会、自給自足、農業を通じた国際協力：農業作業、給食作り、食品加工、事務補佐等(インターン希望者のニーズによって調整)
11	国際協力	NPO法人HANDS	東京都・文京区	途上国における保健活動、国内で出来る国際協力活動、NPOの広報活動：海外プロジェクトの業務補佐、広報・マーケティング関連業務、庶務業務等。
12	国際協力	NGO草の根援助運動	神奈川県・横浜市	国際協力関連イベント手伝いや広報などの業務補佐等。
13	国際協力	ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)	東京都・千代田区	外交政策の調査、HRWが発表するニュースリリースの翻訳、イベントサポート、データベース管理など
14	国際協力	ヒューマン・ライツ・ナウ(HRN)	東京都台東区	人権侵害に苦しむ地域に駆けつけて現地NGOと協力して事実調査を行い、世界にむけて報告し、人権状況の改善を訴える。平和構築における人権・法の支配の尊重の実現、現地NGOと連携したエンパワーメント型の法整備支援。
15	国際協力	JICA青年海外協力隊二本松訓練所	福島県・二本松市	JICAボランティアの派遣前訓練支援 青年海外協力隊派遣前訓練の業務補佐、国際協力関連の講義・実習への参加
16	国際協力	やしの実の会	茨城県つくば市	フィリピン、セブ島のスラムにおける教育支援(奨学金プロジェクト等)/イベント手伝い
17	国際協力	独立行政法人国際協力機構JICA	国内各事務所	国際協力・開発援助
18	国際協力・理解 ・ビジネス	宇都宮大学・国際学部・国際キャリア開発プログラム	宇都宮大、作新大、白鷗大	プログラムの宣伝活動、会場設定とマネジメント、関連資料の作成
19	国際理解	国際NGOいっくら	栃木	いっくら主催事業(多文化共生、国際理解、日本語指導など)の企画・立案やアシスタント。 その他、国際観光ガイドアシスタント、観光ガイド用資料作成など。
20	国際協力	宇都宮市清原地区市民センター	栃木県宇都宮市	①清原地区外国人在住者など向けのブログ作成 ②宇都宮市(清原地区市民センター)のホームページ作成 ③清原地区住民へのアンケート結果の分析
21	国際ビジネス	㈱中村製作所	栃木県那須烏山市	海外工場との連携業務の実務体験。海外では研修期間を通じて、“世界の工場”と言われている中国の実情を肌で体験する
22	国際ビジネス	株式会社FAR EAST	埼玉県飯能市(本社) 埼玉県大宮市(イェント) 東京都(東京ビュッサイ/インターナショナル・ギフトショー)	開発途上国との開発輸入ビジネスの現場と実際を知る。
23	国際ビジネス	㈱上原園	栃木県栃木市	種苗関係の国際雑誌の翻訳、現場実習、etc
24	国際理解	小山市国際交流協会	栃木県・小山市	国際交流、地域の外国人問題を考える：地域の外国人を対象とした日本語教室でのボランティア活動、国際交流イベントの手伝い、広報等業務補佐等。
25	国際理解	JICA地球ひろば	東京都・渋谷区	展示コーナー(体験ゾーン)の見学、説明方法についての概説、ジュニア地球案内人として来訪者への応対、展示の説明、ワークショップの作成、国際協力に関する講義、国際協力関係者との交流プログラム
26	国際理解	栃木県国際交流協会	栃木県宇都宮市	地域の外国人を対象とした日本語教室でのボランティア活動、国際交流イベントの手伝い、広報等業務補佐等

(2) 国際キャリア実習Ⅱ

平成 23 年度開講の「国際キャリア実習Ⅱ」に関して、国際協力、国際ビジネス、観光まちづくり、国際理解の分野において海外実習先の開拓、並びに協定締結を順次、行なってきた。実習先数は40団体・機関・企業であり、国数では19カ国に及ぶ。但し、独立行政法人国際協力機構（JICA）のように、受入先は1ヶ所でも派遣先が複数の国にわたる（平成 22 年度の場合の対象国は 23 カ国）場合もあり、これらを含めると更に対象国数は増える。協定締結に関しては国際キャリア実習Ⅰで作成した協定書のひな型を英訳、あるいは、現地語に翻訳し、受入先と調整した上で最終的な協定書を作成、そして順次締結してきている。表 2-1 には分野別の受入先数を、表 2-2 には受入先名と概要を示す。

・海外インターンシップ受け入れ先数

表2-1

分野	箇所数
国際協力	23
国際交流	3
国際ビジネス	1
観光まちづくり	5
国際理解	2
複合タイプ、他	6
団体・機関・企業数 合計	40

表2-2

【国際キャリア実習Ⅱ 受入先一覧表】(海外)

No.	分野	受け入れ先	場所	テーマ・活動内容
1	観光まちづくり	AHV(アーティストホームヴィレッジ)	カザフスタン	国際コンクール日本予選の企画立案やコンクールの運営補助。カザフスタンではコンクール本選での日本からの参加者のアテンドや文化施設を視察する。
2	観光まちづくり	JEIC(JTB Educational Institute of Canada)	カナダ	JTECカナダの各職場で観光事業の実務研修、並びに観光ビジネスを視察しバンクーバーのまちづくりを視察する。24年3月12日～26日(15日間)。受入数は6名～15名まで。
3	観光まちづくり	中国旅行社総社(大連)有限公司	中国・大連	中国観光業の<百強旅行社>の中の一社。観光事業の実務体験と日中相互の観光ツアーの企画立案、並びに、観光ビジネス現場の視察と実習を行なう(案)。
4	観光まちづくり	大連中山大酒店	中国・大連	大連政府認定の対外国人向け優良ホテル(4つ星)。接客や部屋のセッティングなど、ホテル業現場の実験を行なう(案)。
5	観光まちづくり	広州雲峰大酒店	中国・広州	4つ星ホテル。接客や部屋のセッティングなど、ホテル業現場の実験を行なう(案)。
6	国際観光・理解	Volunteer Projects Overseas	ウガンダ・カンバラ、カムリ(北部)、(西部)、部の企画は2011年4月以降開始予定	教育や学校運営(カンバラ)、地方の生活体験をし、食糧の安全保障農業・衛生・栄養(北部)。持続的な観光業と環境保全(西部)
7	国際協力	(特NPO) 日本国際ボランティアセンター(jvc)	タイ	農業作業・順民参加を通しての村おこし・活性化
8	国際協力	①NGO Gawat Kalinga(GK) ②NGO Kanlungansa ER-MA Ministry, inc ③NGO Options	フィリピン	ストリート・チルドレンへの教育や、スラムでの住宅改善・水道及びトイレの設置、学校建設などを通じ、都市貧困の現状を学ぶ上記の同じ実習内容で受け入れ先は3か所あり、実習生の希望と受け入れ先との状況を加味して決定する。
9	国際協力	NGO Philippine Rural Reconstruction Movement (PRRM)	フィリピン	漁村やコーヒー生産者を訪ね、農村開発・有機農業普及など、フィリピンの農村の現状を学ぶ
10	国際協力	NGO Batis Center for Women	フィリピン	海外移民労働者の家族や帰国者の訪問や、日比の間で生まれた子ども達と交流やNGOのコース・グループの研修やワークショップに参加
11	国際協力	①LUMANTI (NGO) ②CONCERN (NGO) ③マナブ養護学校(障害者施設) ④バタンCBR(養護施設)	ネパール	子供や教員と接し、児童労働、子どもの権利、教育普及などの課題を考える。さらに、同世代の学生を訪ね、現地の人々と交流する。上記の同じ実習内容で受け入れ先は4か所あり、実習生の希望と受け入れ先との状況を加味して決定する。
12	国際協力	(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)	タイ、カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー難民キャンプ	教育・文化分野での支援活動を行なっている団体。受講希望者と相談の上、インターンシップ先を斡旋。
13	国際協力	EDF(Education Development Foundation)	タイ	車いすの提供や生活環境・通学就学環境改善など障害児支援活動等を行なっているEDFのアシスト。場合により出張もある。現地には日本の民衆センター(EDF-JAPAN)を通じて派遣される。
14	国際協力	国際NGOウランバートルいっくら	モンゴル	ウランバートルいっくら主催の観光案内手伝い・講演補助など
15	国際協力	JICAモンゴル事務所	モンゴル	主催事業の手伝い、事務所の雑務など
16	国際協力	モンゴル日本人材開発センター	モンゴル	センター主催事業の市民講座である「日本語しゃべり場」「日本文化紹介」などのアシスタント
17	国際協力	シャンティ国際ボランティア会	カンボジア・ブノンペン	スラム開発、巡回図書館、学校建設等自分のテーマに合った活動を行うことができる。例えば、図書館の整理、運びの手伝い、英語レポート・データの翻訳等。
18	国際協力	王立ブノンペン大学「カンボジア日本人材開発センター」	カンボジア・ブノンペン	毎年10月上旬1日開催される日本大学フェアの開催準備の手伝い、2月中旬3日間開催されるセンター創設記念フェスティバルの開催準備の手伝い、において翻訳、会議、ブース HR作成準備を行う。毎年8月開催の日本語コースにおいて、カンボジアの学生が書く日本語のチェックを行う。
19	国際協力	INTERRAC	イギリス・ロンドン	研修セミナーの準備、調査の実施、調査報告書作成手伝い、等社会経験と英語力が求められる。短期研修コースは有料でモニターと評価、インパクトアセスメント、パートナーキャパシティ・ビルディング、組織改革、組織開発、アドボカシー、ジェンダー分析と計画、戦略計画、トレーニング教育等のコースがある
20	国際協力	テラ・ルネッサンス	ウガンダ・グル、カンボジア	元子ども兵の社会復帰や、元子ども兵と地域社会の和解に関する調査やアドボカシーなど
21	国際協力	EAANSA(Eastern Africa Action Network on Small Arms)	ウガンダ・カンバラ(東・中部アフリカ13カ国にも展開している)	小型武器の不法流入に関する情報収集、調査、アドボカシーや企画作り資金集め
22	国際協力	Refugee Law project	ウガンダ・カンバラ(マケケレ大学の法学部内)	難民、強制移動、人権、移動期正義などに関する研究、調査、研修など。
23	国際協力	ICTR(International Criminal Tribunal for Rwanda)ルワンダ国際戦犯法廷	タンザニア・アルーシャ、オランダ・ハーグ、ルワンダ・キガリ	司法に関する調査、報告書の原案書きなど
24	国際協力	ボゴダ市役所(どのNGOかは未定)	コロンビア	紛争からの復興支援の現場を訪ね、元兵士やその家族達の社会復帰のための起業や社会サービスなどの取り組みを学ぶ
25	国際協力 まちづくり	フロムジャパン	イギリス	学校やイベントで日本の文化やエコを伝える文化活動をしながら、英国の市民社会やまちづくり、国際協力の取組みを学ぶ
26	国際交流	モンゴル人文大学	モンゴル	アジア言語文化研究学部研究室で行なう日本文化の紹介(折り紙、書道、まんが、着付けなど、一つでも日本文化を教えられること)。 その他、8:00から20:30まで研究室にて、担当教授、准教授の授業の手伝い。
27	国際交流	私立 新モンゴル高校	モンゴル	小中高生に対する日本語授業のアシスタント。 日本文化(遊びの文化:ピー玉、メンコ、ジャンケン、けん玉など)の紹介ができること。
28	国際交流	私立 オユニトルガ学校	モンゴル	小中高生に対する日本語授業のアシスタント。 日本文化(遊びの文化:ピー玉、メンコ、ジャンケン、けん玉など)の紹介ができること。
29	国際ビジネス	大連中村精密部件工業有限公司	中国・大連	海外工場との連携業務の実務体験。海外では研修期間を通じて、”世界の工場”、と言われている中国の実情を肌で体験する
30	国際理解	早川千晶氏(フリーライター・旅案内人)	ケニア	環境保護、民族の文化・伝統の尊厳、開発、都市化、移住、ODA(による負の影響)といったテーマでのスタディーツアー
31	国際理解	ヨークSTジョン大学グローバル教育センター	イギリス・ロンドン	毎年2月下旬に開催されているヨーク市のフェアトレードシティの取り組みの一環である、フェアトレード・フォー・ナイトのイベントの手伝いを行う。
32	国際協力・開発援助	独立行政法人国際協力機構(JICA)	22年度の場合は23カ国	一般業務補助もしくは配属先が設定した特定テーマに関する業務(補助)
33	国際理解・協力	Evangelism And Christian Healing for RWANDA	ルワンダ	①アカデミックな部分を学ぶ(論文の聞き取り調査など)、②現場体験、③HPを更新・新規デザインなど、自分の得意・関心分野を考慮しながら、プログラムをつくること
34	国際協力・理解・ビジネス	Organic Solution Rwanda(株)	ルワンダ	ケニアでオリエンテーション後、ルワンダのキガリで環境・農業関連の事業活動に参加。テーマはコミュニティの自立を目指したビジネス
35	人材育成	Directory of Social Changeq(Information and Training for the Voluntary Sector)	イギリス・ロンドン	マーケティングはデータベース管理・入力、出版部門は編集、調査、校正。ロンドン事務所かリバプール事務所。

2-3 国際キャリア FD 委員会企画講演会

学生に常時、国際キャリアについて考えてもらうために、国際キャリア開発プログラムは3つの合宿セミナー以外に、公開講演会などの企画を年に数回行った。

(1) 挑む！ーアフリカで47年ー

日時：平成22年4月21日（水）

会場：宇都宮大学 大学会館

講師：佐藤 芳之氏（オーガニック・ソリューションズ(OS)社長）

略歴：1939年生まれ。63年、東京外国語大学卒業、ガーナ大学院でアフリカ学修士号を取得。74年、ケニアナッツ・カンパニーを起業。08年、ルワンダで公衆衛生事業会社OSを設立。

参加人数：70人



要旨：学生時代にレイチェル・カールソン『沈黙の春』を読み、利益の極大化を追求することは良くないことと気づいた。また「青年は荒野をめざす」という言葉に引かれた。人は、ハラハラドキドキの冒険をなぜやるのかに興味があった。ケニアではこれまで、エンピツ製造、製材業、農業用シート製造を手がけては、現地の人に売却してきた。その後、植栽から収穫まで7年間かかるマカダミアナッツ栽培と加工を行った。事業の立ち上げに明治製菓の支援を得て、品種改良はJICA 専門家に依頼した。現在、4100人の従業員がいる。英国航空から品質が認められ、機内食のナッツはケニアナッツ製である。これまで会社のサバイバルを、至上命題としてやってきた。自然保護区の隣接地に農園を造成したが、ナッツをゾウに襲撃されて放棄したり、工場と農場をギャング（地元の警察署長）に占拠されて経営を諦めたこともある。ケニアでは、人を育てるスパンが問題で、10人必要なら12人育てる。ケニアのエイズ感染者は16人に1人おり、30代後半に亡くなる人も会社を休む人も多からだ。60才から年金が支給されるが、その前に亡くなる人が多いため、ケニアでは年金制度はほとんど機能しない。

ケニアでは「言葉は（ケニア山に吹く）風」と言われ、その時の状況や気分で言うことが変わる。そのため重要なのは理解ではなく、ウソを見抜く目や「風を感じること」（共感）だ。日本人の真面目さは世界では例外的である。ウソ、文化、言語の違いとの戦いの連続が、いわゆる国際的な仕事の実態であり、それは日本で想像するイメージと異なる。普通のビジネスにあきたらず、経済活動としての援助、BOP (Bottom of Pyramid) ビジネスをしたいと思うようになった。ケニアナッツの経営から身を引き、微生物を利用してトイレの浄化ビジネスをルワンダで始めた。日本人職員を3人採用、日本人インターン3人を受け入れている。ケニアでの利益をすべて投入した資本金は1000万円で、会社経営はまだ赤字である。住民は10人1組で1つのトイレを使用し管理する。職員は背中にタンクを背負い、トイレに微生物液を流す。微生物液は臭い成分だけでなく、便も分解する。顧客の95%が、まったく臭くない、ハエがいなくなったと喜んでいる。新しいビジネスは3年で事業化する。起業して一流の技術者を雇い、仕事をまかせる。作業をマニュアル化し、現地人に渡す。それで役割が終わり、次の仕事を考える。パッと現れ、サッといなくなるのは、黒澤明監督『7人の侍』の最後のシーンのようである。

キャリアとは「就職」と思っている学生が多いが、「創職」も考えてほしい。小さな資金（100万円）でも出来ることは多くある。事業が計画通りに進むことは少なく、ほとんどは思いがけない展開をするが、始めたら必ずやる手だてはあるので、やることを勧める。（文責：友松篤信）

参加者の感想

「国際協力というのは資金や技術の援助だと思っていました。しかし講演会を聞いて、利益を求めずに行うボランティア的な活動だけが国際協力なのではなく、ビジネス・経済活動としての国際協力もあることを認識しました。そのために、社会的貢献を常に考えていかなければ行かないのだろうと思いました。」

(宇都宮大学教育学部総合人間形成学科 大島悠也)

(2) 観光とまちづくりを考える講演会 「観光とは何か ～まちづくりと持続可能な地域経営～」

日時：平成22年6月22日(火)

会場：作新学院大学

講師：鈴木忠義氏（東工大名誉教授、日本観光研究学会初代会長）

参加人数：415人



要旨：観光は主体、目的、対象、手段、構成などにより、「旅」、「旅行」、「レクリエーション」に分類されるが、基本は自分の余暇時間とお金を使って、日常では体験できないものや感動を獲得に行くものである。地域の中に市場を呼び込むのが観光開発であり、地域内での「もの・かね・ひと・しくみ（情報）・ところ」の循環作用が地域の活性化を生む。市場性を高めるには、アクセスの改良、誘客宣伝、物産宅送受注などの努力を要す。

観光には観光者、観光受地の住民・出身者、職能としての参加者（企業、専門家等）の三主体があり、観光産業としては三方よしの近江商人の商い方法が理想である。人間や生き物が摂取と排泄を繰り返しながら身体を形成していくのと同様、まちづくりは少しずつ地域内に観光資源の蓄積を図っていくことである。観光には先進国型と途上国方があり、先進国型は外客国民を同等視し、観光客は単独行動に対し、途上国型は外貨獲得を目的として、観光客は集団で行動をとることが多い。

(3) 『つながる！世界×地域×大学生』～今だからできること～

日時：平成22年1月20日（木）

会場：白鷗大学東キャンパス 6階603教室

講師：岩井俊宗氏（宇都宮市民活動サポートセンター）

経歴：宇都宮大学国際学部卒。限界集落対策事業「三依プロジェクト（宇都宮まちづくり市民工房/理事）」や「とちぎユースサポーターズネットワーク」を設立/運営。

講師：齊藤佳央里氏（JICA ジュニア専門員）

経歴：立命館大学国際関係学部卒。ベトナムで青年海外協力隊・村落開発普及員として活動。

タイ国のマヒドン大学で修士課程を修了。

参加人数：32名

要旨：地域おこしと国際協力の現場で活躍する若手社会人の講師から仕事のやりがい、将来のビジョンを聞くことで、大学生が学生時代に出来ることや将来の生き方を考えることを目的として講座を実施した。白鷗大学生6名が運営スタッフも務めた。講師の経験談の後には、フリー・トークの時間を設け、将来設計などについて活発に意見が交わされた。

岩井氏：大学時代に海外だけでなく、国内にも課題が多い事に気づき卒業後は地域の課題に取り組む

NPOに入った。ボランティアコーディネーターとして市民からのSOSにチームを組んで解決にあたっている。人の可能性を広げる活動に目覚め、他者がライバルではなく仲間になる仕事に魅力を感じた。三依プロジェクトでは限界集落を支援し、ユースサポーターズでは若手起業家にインタビューをするなどの活動をしている。市民が解決力と自負を持ち、自ら歩み出すきっかけ作りをすることを目指している。大学時代は自らの足で稼ぎ、人と出会い、本気になれることを見つけて欲しい。

斎藤氏：アフリカにおける飢餓問題にショックを受け国際協力に目覚めた。大学卒業後、青年海外協力隊として健康教育に関わり保健医療技術はなかったが、プロジェクト運営を自分の専門性になると考えるようになった。帰国後タイの大学院でヘルスマネジメントを学び、修了後はJICAのジュニア専門員として保健プロジェクトに関わっている。現地のお母さん達や子どもが笑顔になる瞬間にやりがいを感じる。今後の国際協力においては仏語圏の西アフリカに集中するなど、傾向にあった人材となる力をつけることを勧める。国内の経験はプラスとなるので、一度就職してから国際協力の道に進むこともお勧めする。

参加者の感想

自分のやりたいことを仕事にされている方の話はどれもエネルギーに満ち溢れていて、たくさんパワーをもらった。また、力強く生き、常に行動していきたいと思った。今後も深くつながっていきたい方と出会うことが出来た。(白鷗大学 教育学部 3年)

2-4 国際キャリア FD 委員会企画公開講義

(1)キベラ・スラムとケニア社会事情

日時：平成 22 年 4 月 23 日（金）

会場：宇都宮大学

講師：早川 千晶 氏（フリーライター、「ウペポ〜アフリカの風ネットワーク」発起人）

参加人数：100 人

要旨：貧富の格差の激しいケニアの社会事情などを説明しながら、東アフリカ最大級のスラムで生きる人々の生き様について、スライドをまじえて紹介した。



(2)限界集落」を支える地域おこし協力隊の活動(新潟県十日町市)

日時：平成 22 年 6 月 8 日（火）

会場：宇都宮大学

講師：多田朋孔氏（地域おこし協力隊）

参加人数：50 人

要旨：山間集落の過疎化が進み、集落機能維持が厳しい「限界集落」新潟県十日町市における、地域の活性化や維持・保全の支援活動を紹介した。



(3)「共に生きるために」有機農業とコミュニティ・ライフの実践

日時：平成 22 年 6 月 8 日（火）

参加人数：50 人

会場：宇都宮大学

講師：大柳 由紀子氏（アジア学院）

要旨：海外の研修生が有機農業を学びながら共同生活を実践してきたアジア学院での活動内容や、インターンシップに関して講義をした。



(4)ファシリテーター研修会

日時：平成 22 年 7 月 21 日（水）

会場：宇都宮大学

講師：青木将幸氏（青木将幸ファシリテーター事務所代表）

参加人数：18 人

要旨：国際キャリア開発プログラムでは、「国際キャリア基礎」「国際実務英語 I」の合宿セミナーのファシリテーター希望者を対象に研修会を行った。



(5) ファシリテーター研修会『参加型って?』、ファシリテーターの役割と体験型演習

日時：平成 22 年 11 月 13 日(土) 13:00~16:30

会場：白鷗大学東キャンパス 101 教室

講師：佐藤玲子氏 (JICA 青年海外協力隊事務局)

参加人数：20 人

要旨：ファシリテーション能力を高めたいという元合宿セミナー参加者の声を受け、国際分野はもちろん、学校現場や将来の職場で役立つファシリテーション研修を実施した。研修では議論を活発化し、参加者の意見を引き出し、人間関係を促進するスキルをグループワークなどを通して実践的に学んだ。



(6) ミニ合宿セミナー「再会スペシャル&これから」

日時：平成 22 年 12 月 11 日(土) ~12 日(日)

会場：宇都宮大学農学部附属農場

講師：安田 麻季代氏 (人×組織コンサルタント)：2005年 株式会社キャリアメイツ入社。

人材派遣・人材紹介の営業及び採用業務と就業者支援を行う。2007年コクヨ九州販売株式会社入社。人事専任担当。2010年からコンサルタントとして就職・転職活動支援、教育研修支援、ワーク・ライフバランスの推進、女性活躍支援などを行う。

参加人数：22 人

概要：主に国際キャリア開発基礎、及び国際実務英語 I の参加者を対象に合宿セミナーのフォローアップと、本プログラムに積極的に参加する学生リーダー育成を目的として1泊2日のミニ合宿を行った。また外部講師によるコミュニケーション研修を通して、合宿セミナー終了後の継続的なスキル・アップと大学間交流を図った。最終日には、各参加者からキャリア実現のための自己宣言も発表され、具体的なキャリア形成の計画づくりや、参加者一人ひとりの強みを伸ばしながらアクションに繋げる合宿となった。

・日程スケジュール

1日目	10:00	受付 JR 宇都宮駅東口
	11:00-12:00	昼食・自己紹介
	12:00-16:00	コミュニケーション研修(ペア・グループでのワークショップ、ディスカッション、プレゼンテーションなど)
	16:00-18:00	合宿セミナー・フォローアップ
	18:00-19:00	夕食
	19:00-	交流会
2日目	08:00-09:00	朝食
	09:00-11:00	今後の計画案
	11:00-	会場出発

(7) 教育に関する学生とのブレインストーミング

日時：平成 22 年 10 月 20 日（水）

会場：宇都宮大学

参加者数：15 人

要旨：国際キャリア開発基礎、国際キャリア実務英語 I の学生のレポートを基に、学生が考える理想な「大学教育」と「キャリア教育」について議論した。学生はその結果を国際学部の FD 研究会で発表しこれからの国際学部の新入生合宿やキャリア教育への効果が期待される。



(8) 国際キャリア開発プログラムについてのヒアリング

日時：10 月 21 日（木）

会場：白鷗大学

参加者数：6 人

要旨：主に国際キャリア開発基礎に参加した学生から、より学生のニーズに合った次回合宿セミナーを実施するために改善点などの聞き取りを実施した。「講師だけでなく学生が発信する場を作って欲しい」、「合宿期間を長くして欲しい」などの要望が出、国際キャリア開発特論のプログラム内容に反映された。

(9) ミニ・スタディーツアー「出会いと学びのフィリピン訪問」

日時：平成 22 年 2 月 22 日（火）～3 月 4 日（金）

訪問先：フィリピン共和国（ルソン島・セブ島）

参加人数：8 名（白鷗大学、宇都宮大学、国際医療福祉大学）

引率：真貝沙羅（白鷗大学）

概要：国際キャリア開発合宿セミナーの経験者などを中心に有志の学生が集まり、①貧困層への支援をする NGO などを訪問し、国際協力の現場を知る、②「子ども」、「教育」、「医療」、「都市貧困」をテーマにフィリピン社会の現状を学ぶことを目的とし、フィリピンを訪問した。



主な訪問先：

- Batis Center for Women (NGO) 活動分野：ジェンダー、子どもの権利、法的支援
- Gawat Kalinga (NGO) 活動分野：住宅支援、コミュニティ開発、教育
- Options (NGO) 活動分野：社会福祉、若者リーダー育成、生計向上
- バスーラの家（日本の支援団体） 活動分野：都市スラムの住民への給食、定期健診

・ 日程表

日程	プログラム	宿泊先
2/22	CI107 09:40 成田発-15:55 マニラ着 夕方:オリエンテーション	PhiDHRRRA
2/23	結核予防会国際部の医療プロジェクト訪問 12:00-16:00	

2/24	Batis Center for Women 事務所訪問 9:00-17:00	Partnership Center
2/25	バスーラの家を訪問 09:30 現地、子ども達への給食の炊き出し	
2/26 -27	GK 現場視察、子ども達 (7~12 歳)とのアクティビティー	ホームステイ
2/28	セブ島へ移動 8:00 マニラ発 9:15 着 Options 活動紹介	Ancestors Pension House
3/1	Options 支援現場視察 (近郊村、スラム訪問) 13:00 大学訪問	
3/2	Options のスタッフと学んだ事の振り返り、まとめ	
3/3	10:30 青年海外協力隊活動現場視察 (農業省、国家酪農庁) マニラへ移動 15:50 セブ発 17:50 着	Pension Natividad
3/4	CI702 10:45 マニラ発-20:45 成田着	

参加者の感想

・今回のツアーを通して、規模や支援活動の異なる団体を多視点から見ることができ、住民に最も必要なこと、私達にできることを考えることが出来た。また、経済格差や文化・宗教の違いなどを感じ、日本人とフィリピン人の考え方をシェアする機会となった。(宇都宮大学国際学部4年)・フィリピンで多くの方々と出会い、NGO 活動など多くの団体を現地で目にして、教育等の現状を実際に目にすることが出来た。現役の青年海外協力隊の方々の話は私の将来を明確なものにしてくれた。今後も世界へ目を向けられる人になりたい。(白鷗大学教育学部3年)

3. 事業の広報

3-1 ホームページ

学生、地域の企業や機関への情報発信のツールの1つとして、当プログラム専用のHPを平成21年度に立ち上げた。当プログラムの概要や教員紹介、カリキュラムやイベントの内容を掲載している他、国際キャリア合宿セミナーへの参加申込及び国際キャリア実習への申込をHPから行えるよう整備した。適宜、HPの更新を行うことで、活動状況を常時発信している。

なお、サイト構成とトップページデザインは下記の通りである。

・サイト構成

プログラムについて

- 挨拶
- プログラム概要
- 運営体制
- 委員会規定
- 委員会名簿
- 報告書
- メディア掲載

カリキュラム

- 教員紹介
- カリキュラム
- シラバス
- 実習先
- キャリア相談
- 講義映像

参加者の声

- 参加者の声
- インタビュー

イベント情報

- イベント記録
- 会議記録

受講申込

- 受講方法
- 申込フォーム
- よくある質問
- パンフレット

資料請求・お問い合わせ

- お問い合わせ先
- チラシ・パンフレット
- メールマガジン登録

サイトポリシー

サイトマップ

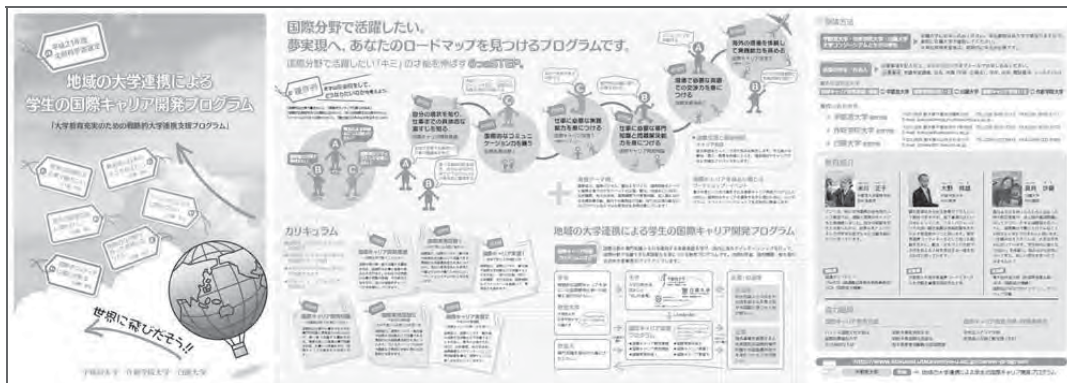
・トップページデザイン



3-2 ポスター・チラシ・パンフレット

学生や地域の企業、機関への紙媒体での情報発信ツールとして、パンフレット・受講者募集チラシ・同ポスターを作成し、3大学の学生以外に全国の大学や協力機関・企業・教員などに送付し、広く当プログラムへの参加を呼びかけたことで、北海道から九州まで全国各地からの参加者を獲得した。また、カラフルで学生が親しみやすいデザインを採用している。なお、パンフレット、チラシ、ポスターのデザインは下記の通りである。

・パンフレット(A3サイズ2つ折り)



・チラシ(A4サイズ両面)

平成 22 年 6 月発行 国際キャリア開発基礎、国際実務英語 I 参加者募集用



平成 22 年 11 月発行 国際キャリア開発特論参加者募集用



・ポスター(A2サイズ)



3-3 メールマガジン

平成 22 年度に実施した「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語 I」「国際実習 I」の受講生募集に当たっては、HP の運営、パンフレットやチラシの配布などの他に、メールマガジンを活用した。購読者の募集については、HP、チラシ、ポスターへの記載及び国際キャリア合宿セミナーや国際キャリア FD 委員会企画講演会等での広報活動を行った。また、QR コードの活用で登録を容易にする工夫を行い、メールマガジン登録者数は 121 名となった。メールマガジンの発行日及び発行部数と内容は、下記の通りである。

配送日	発行部数	発行内容
2010 年 6 月 4 日	10 部	国際キャリア開発基礎、国際実務英語1参加者募集 国際キャリア FD 委員会企画公開講義お知らせ
2010 年 7 月 5 日	73 部	ファシリテーター研修会のお知らせ
2010 年 7 月 9 日	82 部	国際キャリア実習 I のお知らせ
2010 年 7 月 12 日	88 部	ファシリテーターって何だろう？
2010 年 7 月 29 日	92 部	キャリアについて
2010 年 8 月 6 日	96 部	「Can you speak English?」国際実務英語 I の参加者募集
2010 年 8 月 30 日	98 部	成功者の優れた資質とは(キャリアについて)
2010 年 9 月 15 日	102 部	国際キャリア合宿セミナーでのリクエスト、苦情への回答
2010 年 10 月 6 日	100 部	スイッチがオフに戻っていませんか？(キャリアについて)
2010 年 10 月 8 日	100 部	合宿セミナー企画会議参加者募集
2010 年 10 月 19 日	105 部	国際キャリアに関するイベント紹介
2010 年 10 月 20 日	107 部	合宿セミナー企画会議 in 白鷗大学参加者募集
2010 年 11 月 4 日	108 部	国際キャリア FD 委員会企画ミニ合宿参加者募集
2010 年 11 月 19 日	103 部	国際キャリア開発特論参加者募集
2010 年 12 月 1 日	104 部	国際キャリア開発特論参加者募集
2010 年 12 月 8 日	104 部	国際キャリア実習 I 受講者募集
2010 年 12 月 10 日	105 部	国際キャリア FD 委員会企画公開講義(in 白鷗大学)参加者募集
2010 年 12 月 15 日	111 部	国際キャリア開発特論参加者募集
2010 年 12 月 17 日	115 部	国際キャリア開発特論講師紹介
2010 年 12 月 20 日	115 部	国際キャリア FD 委員会企画ミニ合宿報告
2011 年 1 月 14 日	117 部	国際キャリア開発特論参加者募集
2011 年 2 月 24 日	119 部	国際キャリア FD 委員会企画講演会のお知らせ
2011 年 3 月 10 日	121 部	国際キャリア合宿セミナー講師の活動情報

3-4 ブログ

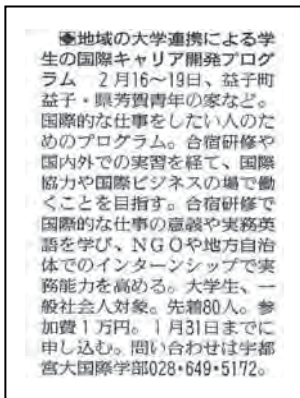
連携3大学間の密な連携、円滑な情報交換及び資料の共有を目的に、関係者に限り閲覧可能なブログを立ち上げた。記事では、カリキュラムの内容及び講師の選定状況など、常に最新の情報を交換することが可能となり、共有資料では年間スケジュール、各種委員会の規定・内規、シラバス、インターンシップ協定書等、必要な書類を常時閲覧することが可能となった。



3-5 新聞、雑誌記事

読売新聞

平成 23 年 1 月 26 日 (水) 掲載



国際協力ガイド 2012

平成 22 年 10 月発行

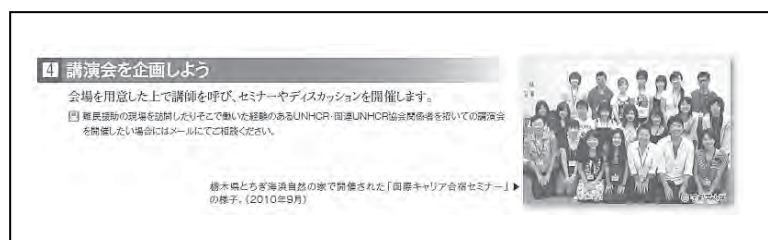


国際開発ジャーナル 2010



国連 UNHCR 協会

平成 22 年 11 月発行国連難民募金ガイドブック 2011年度版



有力な広告媒体の一つとしては新聞広告がある。本事業では対象者を限定した効果的な広告媒体という観点から、「大学コンソーシアムとちぎ」が発行している「とちぎキャンパスネット」（以下、T c - n e t）を活用することを進めてきた。

平成 22 年度については、国際キャリア開発プログラムの事業内容についての説明と、基礎及び実務英語 I の合宿セミナーの実施模様についての 2 回、取り上げて貰っている。

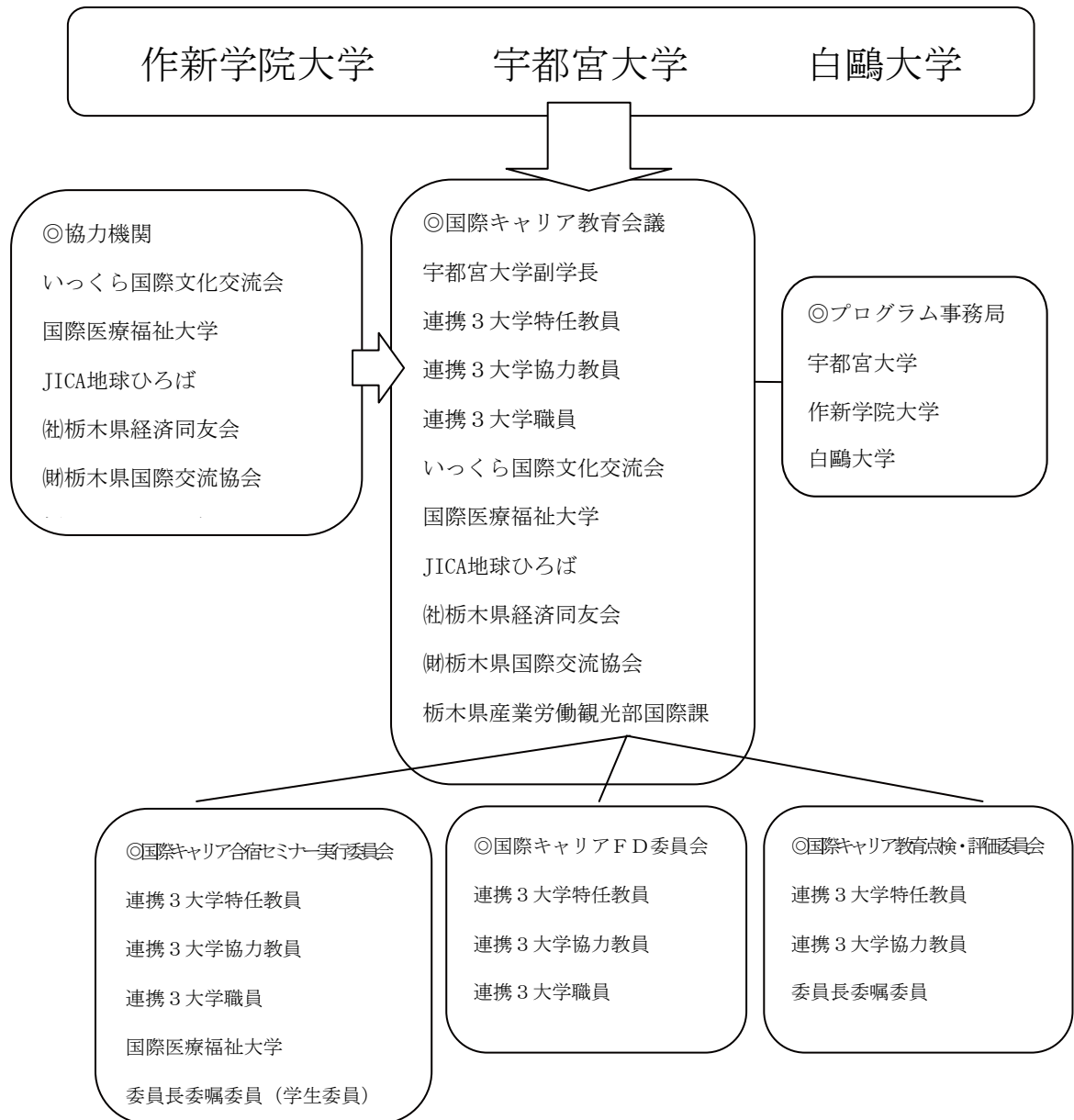
本事業に対しての T c - n e t としての特長は、栃木県内の①全大学等高等教育機関 19 校、全高校 80 校へ配布、②全商工会 40 か所、全商工会議所 10 か所に配布、というところにある。即ち、県内の全大学生、高校生、産業界を網羅していることにある。こうした場所以外にも、県外の一部の進学高校や、公共施設を中心に約 300 か所に年 4 回、3 万部を発行している。

平成 23 年度は平成 22 年度の掲載実績を踏まえ、大学生や高校生、あるいは産業界向けに対象を絞って発行している T c - n e t の特長を生かして、年度初めに合宿セミナーや実習 I ・ II の募集宣伝を行なう予定である。

4. 事業の管理体制

宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学は連携して、それぞれの大学が有する特色ある教育研究資源を活用し、学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ、地域の企業や自治体の国際化ニーズに応える人材を養成するための「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」（以下「プログラム」という。）を文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に基づき実施・運営するために、「プログラム」の実施に関する規程を定め、規定第3条により「国際キャリア教育会議」、規定第9条により専門委員会である「国際キャリアFD委員会」「国際キャリア教育点検・評価委員会」「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を設置し、プログラムに関し必要な事項を決定するものである。

地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム組織図



4-1 国際キャリア教育会議

(1) 役割

- ① プログラムの企画に関すること。
- ② プログラムの広報に関すること。
- ③ プログラムの実施に関すること。
- ④ プログラムの実施に伴う関係機関との渉外に関すること。
- ⑤ プログラムに係るFD（ファカルティーデベロップメント）に関すること。
- ⑥ プログラムの実施報告に関すること。
- ⑦ プログラムの点検・評価に関すること。
- ⑧ その他プログラムに関し必要な事項

(2) 活動実績

平成22年5月18日（火）第1回国際キャリア教育会議開催

平成22年11月18日（火）第2回国際キャリア教育会議開催

平成23年3月東日本大震災の発生により延期し、「国際キャリア教育点検・評価委員会」と合同開催される平成23年5月の「国際キャリア教育会議」で「平成22年度総合報告書」が審議、決定される見込みである。

4-2 国際キャリアFD委員会

(1) 役割

- ① 国際キャリア開発プログラムに係る授業の内容及び方法に関する企画案、調査、研究、実施に
関すること。
- ② 国際キャリア開発プログラムに係る学生の支援・指導及び相談に関すること。
- ③ 国際キャリア開発プログラムに係る事業実施計画案の策定に関すること。
- ④ 国際キャリア開発プログラムに係る講演者・講師の人選に関すること。
- ⑤ 国際キャリア開発プログラムに係る授業の内容及び方法の改善のための方策、企画立案、調査、研究及び実施に関すること。
- ⑥ 国際キャリア開発プログラムに係る広報活動に関すること。
- ⑦ 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)実績報告書案の策定に関すること。
- ⑧ その他国際キャリア開発プログラムに関し必要な事項

(2) 活動実績

平成22年4月10日（月）第1回国際キャリアFD委員会開催

平成22年7月26日（月）第2回国際キャリアFD委員会開催

平成22年11月18日（木）第3回国際キャリアFD委員会開催

平成23年 1月18日 (火) 第4回国際キャリアFD委員会開催
平成23年 3月16日 (水) 第5回国際キャリアFD委員会開催
平成22年 4月 8日 (木) 第1回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 4月22日 (木) 第2回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 5月18日 (火) 第3回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 5月25日 (火) 第4回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 6月 9日 (水) 第5回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 6月15日 (火) 第6回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 6月23日 (水) 第7回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 6月28日 (月) 第8回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 7月 5日 (月) 第9回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 7月 6日 (火) 第10回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 7月13日 (火) 第11回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 7月21日 (水) 第12回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 8月 5日 (木) 第13回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 8月19日 (木) 第14回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 8月30日 (月) 第15回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 9月 8日 (水) 第16回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 9月14日 (火) 第17回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年 9月27日 (月) 第18回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年10月 7日 (木) 第19回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年10月14日 (木) 第20回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年10月25日 (月) 第21回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年11月 1日 (月) 第22回国際キャリアFD委員会WG開催
平成22年12月 9日 (木) 第23回国際キャリアFD委員会WG開催
平成23年 1月18日 (火) 第24回国際キャリアFD委員会WG開催
平成23年 2月 3日 (木) 第25回国際キャリアFD委員会WG開催
平成23年 2月28日 (月) 第26回国際キャリアFD委員会WG開催

4-3 国際キャリア教育点検・評価委員会

(1) 役割

- ① 国際キャリア開発プログラムに係る自己評価・外部評価（事業評価、授業評価）の方法に関すること。
- ② 国際キャリア開発プログラムに係る評価項目・評価内容・評価基準の策定に関すること。
- ③ 国際キャリア開発プログラムに係る評価報告書の作成に関すること。

- ④ 国際キャリア開発プログラムに係る公表に関すること。
- ⑤ 国際キャリア開発プログラムに係る評価結果に基づく改善方策に関すること。
- ⑥ 国際キャリア開発プログラムに係る改善の達成度の検証に関すること。
- ⑦ その他国際キャリア開発プログラムに係る点検・評価に関し必要な事項。

本プログラムの関係機関が多岐に渡り会議日程の調整が困難であること、また本プログラムの業務量が増加し業務の効率化が求められていることから、平成 22 年度は「国際キャリア教育点検・評価委員会」は開催せず、「国際キャリア教育会議」で審議することとした（「国際キャリア教育会議」の審議事項には、「本プログラムの点検・評価に関すること」が含まれる）。

(2)活動実績

「国際キャリア教育点検・評価委員会」は開催せず。ただし、「国際キャリア教育会議」（平成 21 年 11 月 18 日（木））で、夏期の「国際キャリア合宿セミナー」に関する点検評価に関する審議を行った。

4-4 国際キャリア合宿セミナー実行委員会

(1)役割

- ① 国際キャリア合宿セミナー実施計画案の策定に関すること。
- ② 国際キャリア合宿セミナーの実施に関すること。
- ③ 国際キャリア合宿セミナーの実施報告に関すること。
- ④ その他国際キャリア合宿セミナーに関し必要な事項

(2)活動実績

平成 22 年 5 月 10 日（月）第 1 回国際キャリア合宿セミナー2010 実行委員会開催
 平成 22 年 7 月 26 日（月）第 2 回国際キャリア合宿セミナー2010 実行委員会開催
 平成 22 年 7 月 26 日（月）第 2 回国際キャリア合宿セミナー2010 実行委員会開催

4-5 国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会

(1)役割

・国際キャリア開発基礎 ・国際キャリア開発特論

国際キャリア開発基礎の実施運営にあたって 4 名の宇都宮大学の学生が「国際キャリア実習 I」のインターン生として、また「国際キャリア開発特論」では 6 名の宇都宮大学の学生がボランティアとしてかかわった。「国際キャリア開発特論」の主なメンバーは合宿セミナーの参加者でもあったために、合宿中は裏方の作業に従事できなかったが、運営に主体的に関わることで、学生のニーズやアイディアを内容に反映させることができた。合宿セミナーの参加者有志がつくった「国際キャリア開発プログラム学生（ICDPs）」との打ち合わせや連絡、また他学部や他大学への広報も行った。

・国際実務英語Ⅰ

「国際実務英語Ⅰ」の実施運営にあたって9名の白鷗大学の学生有志が学生実行委員会を立ち上げた。合宿セミナー運営に学生が主体的に関わることと、合宿セミナーの内容に関して学生の視点でのニーズやアイデアを反映させることが目的とされた。

(2) 活動実績

・国際キャリア開発基礎 ・国際キャリア開発特論

国際キャリア開発基礎と国際キャリア開発特論の両合宿セミナー前に数回のミーティングが行われ、合宿セミナーのプログラムや運営体制を整えられた。合宿セミナー中のアイスブレイク、司会進行、アンケート回収と分析などを分担して担当した。

・国際実務英語Ⅰ

合宿セミナー実施に向けて夏季休暇中や昼休みを利用して5回のミーティングが実施され、合宿セミナーのプログラムや運営体制を整えられた。委員はそれぞれ、合宿セミナーの配布資料作成、アイスブレイク、司会進行、アンケート回収などを分担して担当した。それまで、合宿セミナーでは学生は参加者としてのみの役割を担っていたが、初めて運営に携わることで学生のニーズに即した合宿セミナーを実施出来た上、学生実行委員の企画運営能力、組織力向上にも繋がった。

第2部 地域社会からの支援

第2部

地域社会からの支援

1. 物的支援

(1) 内容

本プログラムの趣旨に賛同して頂いた機関・企業・団体から協賛金を頂き、本プログラムの事業運営に役立っている。また、合宿セミナープログラムの一部である交流会は、参加する受講者にとっては講師とだけではなく、全国から集まる受講生同士で交流を図る絶好の機会でもあり、毎回、学生には好評の催しである。交流会を盛り上げるために用意するドリンクや菓子類は、基本的には参加者の参加費から捻出するが、交流会の趣旨に賛同する協力機関・企業・団体からの寄贈も歓迎している。

(2) 実績

平成22年度は本プログラムの事業全体の運営資金の一部にと、国際協力機構・JICA地球広場、国際医療福祉大学、大学コンソーシアムとちぎ、あしぎん国際交流財団から協賛金を、また、合宿セミナー基礎・実務英語Ⅰ・特論用にとキンビールからソフトドリンクやアルコール類の寄贈を受けた。

2. 人的支援

(1) 内容

本プログラムは地域の企業や自治体の国際化ニーズに応える人材を育成するために、国際的な事業を展開している地域の企業・団体・機関・大学などから本プログラムの講師、各種会議メンバーとして、また点検・評価の委員として人材面での協力や支援を頂くなど、地域の人的資源の有効活用を図ってきた。

(2) 実績

本プログラムを運営するに当たっては、最高決議機関である「国際キャリア教育会議」や「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」、「国際キャリア教育点検・評価委員会」、「国際キャリアFD委員」などがあるが、これらの会議のメンバーには地域の人材を積極的に活用している。

各会議の委員として、栃木県産業労働観光部国際課、(社)栃木県経済同友会、(財)栃木県国際交流協会、いっくら国際文化交流会、JICA栃木デスク、アジア学院那須セミナーハウス、那須烏山市商工観光課、那須烏山市観光協会から人材を登録して頂いた他、国際医療福祉大学や連携する3大学からも協力教員として数名の教員にメンバーに加わって頂いた。

会議ではこうした委員の方々から、合宿セミナーに学生が参加し易くするために大学側から補助を考えたかどうか、国際的な視野を持ち、地方自治を理解した学生を採用していきたい、合宿セミナーに活用できる施設提供の準備を検討している、さらには実習先を紹介して頂くなど、有益なアドバイスを情報を得た。

また、講演会の講師1名と「国際キャリア実務英語」の外国人講師1名を、それぞれアジア学院

から派遣して頂いた。

3. メディア報道

(1) 内容・実績

国際キャリア開発プログラムについてはメディアの関心も高く、合宿セミナーなどが紹介されている。メディア掲載の実績と内容は以下のとおりである。

- ・国際開発ジャーナル（2010.10月号）：国際キャリア開発プログラムの紹介
- ・読売新聞（2011.1.26）：国際キャリア開発特論合宿セミナーの紹介
- ・UNHCR 協会（国連難民募金）ガイドブック（2010年度版）：特論合宿セミナーの様子
- ・とちぎキャンパスネット 2010年夏号（22号）：国際キャリア開発プログラムの紹介
- ・とちぎキャンパスネット 2010年秋号（23号）：国際キャリア開発プログラム合宿セミナー（基礎、実務英語 I）の紹介

第3部 点検評価

1. 事業評価

1-1 I 達成状況の評価結果及びII 評価結果の判断理由

(1)国際キャリア教育点検・評価委員会

本事業を公平な観点から点検・評価し、来年度以降さらに改善していくために「平成22年度国際キャリア教育会議」を開催し、事業評価を実施した。

評価の方法として、まずは本事業を主に担当する3大学の特任教員と協力教員を中心に自己評価を実施し、その結果を外部の評価委員を含む国際キャリア教育会議が点検・評価した。

「平成22年度国際キャリア教育会議」に関する詳細は以下の通りである。

・「平成22年度国際キャリア教育会議」

平成23年3月東日本大震災の発生により延期し、「国際キャリア教育点検・評価委員会」と合同開催された平成23年5月の「国際キャリア教育会議」で「平成22年度総合報告書」が審議、決定された。

・主な議題

- ① 国際キャリア教育点検・評価委員会委員長の選出について
- ② 国際キャリア開発プログラムの自己評価・外部評価の方法について
- ③ 国際キャリア開発プログラムの評価項目・内容・基準について
- ④ その他

平成23年5月の「国際キャリア教育会議」における本プログラムの点検評価に関する意見は次の通りであった。

合宿日数を1日延ばすことにより、過去に開催された「国際キャリア合宿セミナー」と比較して、学生のプレゼンテーション力が向上したと評価できる。しかしその一方で、運営側の負担は増加しているため、平成24年度以降の運営体制を検討する必要がある。

広報活動の成果により、3連携大学と全国の大学から問題意識の高い学生が参加しており、学生アンケートの結果に見られるように、学生の満足度は高いと感じられる。しかし、「国際キャリア開発基礎」、「国際キャリア開発特論」、「国際実務英語Ⅰ」の各科目で、それぞれのどのような能力が向上したか、満足度とは異なる達成度の観点からの検証が必要である。

各合宿セミナーでは、問題意識を持つことやキャリアパスへの動機づけ、コミュニケーション能力の向上が見られたが、最終日に行われるプレゼンテーションに対する学生同士の批判や意見交換、教員からの指導時間が不十分であり、通常授業と合宿セミナーとの関連付けを検討し、継続的な指導をする必要がある。

国内インターン実習である「国際キャリア実習Ⅰ」では、多数の実習先を確保しているが学生の参加実績が少ない。広報方法や内容を検討し、広報時期を早めることで十分な準備期間を

設ける必要がある。また、この他にも理由を調査する必要がある。

受講学生による実務についての評価項目を作ることで、成果を明確にする必要がある。

海外インターン実習である「国際キャリア実習Ⅱ」では、インターン生が希望すれば、モンゴルの学校での日本語教師としての雇用が保証されているなど、先進的な試みがなされている。

ポートフォリオ管理では、各合宿セミナーでの活動内容に加え、通常授業との関連を含めて評価し、就職先やその後の進路についても、ポートフォリオの情報をもとに追跡調査を行うことが望ましい。国際機関で働くことだけが国際キャリアではなく、一般企業のどの職種でも国際的なセンスを持つ人が求められている。

平成 24 年度以降の運営体制は、3 連携大学の専任教員が中心となる。このため、専任教員に本事業に積極的に関わってもらう必要がある。「国際キャリア FD 委員会」への協力教員の出席率の低さを解消する体制作りを早急に検討し、継続実施に関わる諸問題について議論を行う場を設ける必要がある。

(2) 定量的評価と判断理由

① 4月平成 21 年度に採用した特任教員及び事務職員は継続雇用		
<評価項目>	5段階評価	判断理由
地域連携	4	作新学院大学と白鷗大学の事務職員は平成 22 年度新しく雇用されたが、それ以外は継続雇用された。事務職員全員と特任教員 1 名は栃木県在住者である。当該の特任教員 1 名は公的機関、地域の経済団体・市民団体、自治体との強固なネットワークを有する。
予算執行	4	各大学の会計基準に従い、人件費と福利厚生費が支給されている。
人事・組織	4	特任教員もしくは専任教員、雇用職員を本事業の実施主体として配置し、宇都宮大学を中心に運営する組織体制が継続された。
法令遵守	4	特任教員と雇用職員の雇用は、採用するそれぞれの大学の基準で行った。
説明広報	4	HP に特任教員のプロフィールを公開している。
継続性	4	本補助事業終了後のために、「国際キャリアネットワーク」の構築、大学ファンド、企業寄付金等の自主財源確保のための検討を行った。各大学は特任教員もしくは専任教員を確保して事業を継続する方針を決定した。
全体評価	4	雇用の継続、人事、法令順守など計画通り実施され、事業終了後の自主財源確保等の検討もなされた。
② 4月「国際キャリア FD 委員会」を毎月開催し、平成 22 年度活動方針案作成と進捗確認を行う		
地域連携	—	
予算執行	4	「国際キャリア FD 委員会」は、連携 3 大学の特任教員、協力教員そして事務職員で構成されているため旅費のみが予算執行の対象となる。旅費の予算執行時期は、ほぼ計画的であった。
人事・組織	3	「国際キャリア FD 委員会」は連携 3 大学の特任教員と協力教員そして事務職員で構成されて会合を重ねてきているが、協力教員の参加の少なさが課題である。

法令遵守	4	「国際キャリア FD 委員会」の規定は宇都宮大学の規定に準拠して作成した。旅費は宇都宮大学の会計基準に従い、適正に支給されている。
説明広報	4	HP に「国際キャリア FD 委員会」の紹介がされ、役割が公開されている。
継続性	3	本プログラムの企画・運営・実施の中核的組織になりつつある。
全体評価	3	「国際キャリア FD 委員会」は合宿セミナー、実習、講演会やミニ合宿の実施などを行ってきたが、本来の教育研究業務との両立が困難であるために協力教員の委員会出席に課題がある。遠隔会議や開催日時の工夫が求められる。
③ 5月「国際キャリア教育会議」で平成 22 年度活動方針の審議・決定		
地域連携	4	「国際キャリア教育会議」の外部委員の中に地域の強固なネットワークを有する人材がおり、当該委員から助言を得ている。
予算執行	4	宇都宮大学会計基準に従い、委員への謝金や旅費が支給されている。
人事・組織	4	議題によりオブザーバーを招聘し、意見を聴取した。
法令遵守	4	「国際キャリア教育会議規定」により運営されている。
説明広報	4	ホームページに「国際キャリア教育会議」の委員名簿が公開されている。
継続性	4	「国際キャリア教育会議」を構成する外部企業・団体・機関との連携により、委員の継続性が保障されている。
全体評価	4	「国際キャリア FD 委員会」で策定された活動方針案を基に、外部委員の意見が反映された平成22年度活動方針が審議決定された。
④ 5月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を毎月開催		
地域連携	4	「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」には地域の強固なネットワークを有する外部委員がおり、助言を得ている。
予算執行	4	宇都宮大学会計基準に従い、委員への謝金や旅費が支給されている。
人事・組織	4	「国際キャリア教育 FD 委員会内規」、「職務分掌細則」、「国際キャリア教育点検・評価委員会内規」を審議、決定した。
法令遵守	4	「国際キャリア教育会議規定」により運営されている。
説明広報	4	HP に実行委員会の紹介がされている。
継続性	4	「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を構成する外部企業・団体・機関との連携により、委員の継続性が保障されている。
全体評価	4	「国際キャリア教育会議」で決定した実行計画案に基づき、協力教員の意見が反映された、「国際キャリア開発基礎」及び「国際実務英語 I」の企画内容が審議決定された。
⑤ 5月「国際キャリア実習 I」に関する基礎調査及び国内実習先の開拓		
地域連携	4	「国際キャリア教育会議」の外部委員のネットワークや人脈を活用し、学生にとって魅力的な国内実習先を開拓した。
予算執行	4	宇都宮大学会計基準に従い、実習先開拓に伴う旅費が支給されている。
人事・組織	4	連携 3 大学の特任教員、協力教員、並びに、「国際キャリア教育会議」外部委員と密接に連携をとって活動している。
法令遵守	4	実習先の就業規則や守秘義務などを遵守するべく、インターンシップ誓約書を締結している。
説明広報	4	HP に実習先の詳細が公開されている。
継続性	4	インターンシップ協定書には締結者のいずれからも申し出が無い限り自動的に更に 1 年間延長するという条文を設けている。
全体評価	4	国際協力、国際ビジネス、観光まちづくり、国際理解の分野で 24 か所の実習先を開拓し、実習先の多様化を図った。

⑥5月平成22年度開講科目の広報資料を作成し、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学や全国の大学へ参加を依頼する		
地域連携	4	地域の大学・行政・産業界の協力を得て、パンフレットやメールマガジンなどの広報媒体を効果的に活用し学生等へ積極的な応募を呼び掛けた。
予算執行	4	パンフレット・チラシ・ポスター作成に当たってはほぼ計画通りに執行した。
人事・組織	4	特任教員と事務職員が中心になって、広報がされた。
法令遵守	4	宇都宮大学会計基準に従い、適正な価格で発注している。メールマガジンの取り扱いでは、個人情報の保護を徹底している業者を選択した。文部科学省の単位認定基準に則り、適正な単位数を決めている。
説明広報	5	各科目のコンテンツを大学コンソーシアムとちぎ及び宇都宮大学国際学部の平成 22 年度のシラバスに記載した。ホームページで外部機関・団体とのリンクを張っている。メールマガジンの登録者 124 人に適宜、特任教員から情報を発信している。パンフレットやチラシは、全国の国際関連学部を有する大学(約 160 校)及び協力教員・機関・団体へ配布した。更に新聞各紙への掲載を働き掛けるなど外部メディアを活用したり、特任教員のツイッターやブログ等で積極的に情報提供を図った。
継続性	4	「国際キャリア合宿セミナー」の申込フォームにメールマガジンの登録希望をとることにより、読者数を増やした。
全体評価	4	ビジュアルなパンフレットやチラシ、見やすい階層構造を採用した HP、メールマガジン等の整備に加え、連携 3 大学以外にも協力教員において学生への直接的な呼びかけも行い、より効果的な広報を実施した。
⑦ 6月「国際キャリア FD 委員会」企画講演会開催		
地域連携	4	講演会と一般講義は、地域にも公開された。栃木県にあるアジア学院から講師を招聘した。
予算執行	4	4 月に、オーガニック・ソリューション(株)社長の佐藤芳之氏による「挑む！アフリカで 47 年」の講演会と、早川千晶氏による「キベラスラムとケニア社会事情」の公開講義を開催した。また 6 月に、多田朋孔氏による「限界集落を支える地域おこし協力隊の活動(新潟県十日町市)」と、大柳由紀子氏による「「共に生きるために:有機農業とコミュニティ・ライフの実践」の公開講義を開催した。講師への謝金と旅費の支出が適切に行われた。
人事・組織	4	特任教員と事務職員が中心になって、講演会を企画した。
法令遵守	4	「国際キャリア FD 委員会内規」第二条第4項に則って企画運営した。
説明広報	4	入学式後という適切な時期に、HP、チラシや教員のロコミを通じて広報活動を行った。4人の講師の所属先は「国際キャリア実習Ⅰ、Ⅱ」の受け入れ先でもあるため、実習活動の効果的な広報になった。
継続性	4	地域の講師を招聘することで、地域との連携が深まった。また、年に数回行われる合宿セミナーや実習だけでなく、本講演会のような単発なイベントを定期的で開催することで学生のモチベーションを維持できる。
全体評価	4	学生にとって、日本と外国における幅広いキャリアパスの可能性を考えるきっかけとなった。
⑧ 7月「国際キャリア FD 委員会」企画講演会開催		
地域連携	4	特任教員の人脈を生かし、栃木県の活動家を講師として 2 名招聘した。
予算執行	4	6月に「観光とは何か～まちづくりと持続可能な地域経営～」というテーマで鈴木忠義氏(東工大名誉教授、日本観光研究会初代会長)による講演及び、栃木県の観光まちづくりの事例発表を行い、講師への謝金と旅費の支出を含む予算が適正に執行された。

人事・組織	4	特任教員と事務職員が中心になって、講演会を企画した。
法令遵守	4	「国際キャリア FD 委員会内規」第二条第4項に則って企画運営した。
説明広報	4	特任教員・協力教員、HP・メールマガジンによる広報や、県内大学、地方自治体、地域企業へチラシを配布して案内を行なった。
継続性	4	「国際キャリア合宿セミナー」や「国際キャリア実習」との連携を図り、学生や地域活性化のために、本講演会のような単発なイベントを定期的に行う必要がある。
全体評価	4	学生 350 名が参加し、観光とまちづくりの関連性や、地域での活動実績を学ぶことにより、自己のキャリアパス考えるきっかけとなった。
⑨9月「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語 I」を開講		
地域連携	3	地域の学生や社会人にも「国際キャリア合宿セミナー」を開放した。地域から招聘した講師は、栃木県にあるアジア学院の 1 名であった。
予算執行	4	会場費及び講師への謝金、旅費の支出は適正に執行された。
人事・組織	5	「国際キャリア開発基礎」では学生インターン 4 人を含む実行委員会が、「国際実務英語 I」では初めて学生ボランティア 9 人が中心となって運営されるなど、学生参加が進んだ。
法令遵守	4	「国際キャリア教育会議」の審議結果に従って、運営された。
説明広報	4	全国の大学への広報と特任教員及び協力教員の学生への呼び掛けが効果的に働き、東北から九州まで 130 人（「国際キャリア開発基礎」と 54 人（「国際実務英語」）の参加者が集まった。
継続性	4	「国際実務英語 I」に見られるように、学生が企画運営に関わることにより、本プログラムの学生主体の運営スタイルが確立し、継続性が強化された。
全体評価	3	「国際キャリア開発基礎」では、能動的学習の全体講義と優れた分科会講師により、参加者の士気は向上した。また、「国際実務英語 I」では、参加者は英語を学ぶ自信をつけた。ただし、「国際キャリア開発基礎」の英語版である「国際実務英語 I」の目的は、英語でキャリアパスについて学ぶことであるが、必ずしもその目的と講義内容が一致していなかった。また参加者がもっと積極的に英語で話せるように、教員や実行委員が工夫することが求められる。アンケートで「大変満足」「満足」と答えた学生は「国際キャリア開発基礎」で全体の 68%、「国際実務英語 I」では 80%であった。
⑩ 9月キャリア個別相談の開始		
地域連携	4	学生のニーズに合った栃木県内にある実習先及び就職先の候補に関する情報を提供した。
予算執行	—	
人事・組織	4	特任教員及び協力教員は、所属する大学の学生のみならず、連携3大学の学生を対象に4月以降随時、合宿セミナーなどの機会を活用し、キャリアや国際的な問題に関するイベントに関する相談にのり、適切にアドバイスをした。
法令遵守	—	
説明広報	4	学生個々の興味・関心・熱意を反映させた国際キャリア形成に向け、進路選択やキャリアパスに関して的確な助言をすることを、特任教員・協力教員、HP やパンフレットを通じて幅広く広報している。
継続性	4	当該学生に関する特任教員の指導記録、履修状況をポートフォリオ管理することにより、今後の継続的なキャリア相談が担保されている。
全体評価	4	特任教員のネットワークや経験を学生と共有することによって、学生のニーズと希望にあったキャリアパスを指導している。
⑪ 10月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催		
地域連携	4	地域の自治体、学校法人から委員を迎え、事業を点検評価することにより、地域のニーズや発想などを事業に反映させている。

予算執行	4	宇都宮大学の会計基準に則り適切に予算執行した。
人事・組織	4	会議の効率性を考慮して、「国際キャリア教育点検・評価委員会」と「国際キャリア教育会議」を同時開催にすることが決定された。
法令遵守	4	「国際キャリア教育点検・評価委員会内規」に則り、外部者の公平な観点から点検・評価を行った。
説明広報	4	点検・評価結果は、「平成22年度総合報告書」としてまとめられ、本プログラム関係者、全国の国際関連学部を有する大学(160校)に配布され、HPにおいても公表される予定である。
継続性	4	「国際キャリア教育点検・評価委員会」は、「国際キャリア教育会議」と同時開催することにより、会議の効率化及び委員の負担軽減が図られ、継続性が高められた。
全体評価	4	地域団体推薦の外部委員が加わることにより、本事業の客観的な点検・評価がなされている。
⑫ 11月「国際キャリア実習Ⅱ」に関して実習先と協定を結ぶ		
地域連携	4	地域のネットワークや人脈を活用し、国内の実習先と同一企業の海外実習先(中国、モンゴル、カザフスタン)と協定を結んだ。
予算執行	4	宇都宮大学会計基準に従い、実習先との協定書締結に伴う海外出張費が支給されている。
人事・組織	4	連携3大学の特任教員、協力教員、並びに外部協力者と密接に連携をとりつつ、学生のニーズを積極的に取り入れて受入れ先を開拓した。
法令遵守	4	インターンシップ協定書を締結して、実習先の就業規則や守秘義務などを遵守している。
説明広報	4	特任教員・協力教員、HPやパンフレットを通じて実習先の詳細を公開している。
継続性	4	締結者のいずれからも申し出が無い限り自動的に継続されるという条文を設けた「インターンシップ協定書」を締結している。
全体評価	4	国際協力、国際ビジネス、観光街づくり、国際理解の分野で16カ国40カ所(アジア、アフリカ、北米、南米、ヨーロッパ)の海外実習先を開拓し、学生にとっての選択肢を拡げることができた。
⑬ 11月「国際実務英語Ⅱ」に関して講師の人選を行なう		
地域連携	—	
予算執行	—	
人事・組織	—	
法令遵守	—	
説明広報	—	
継続性	—	
全体評価	—	平成23年9月に開催する「国際実務英語Ⅱ」の講師の人選は、平成23年度5月までに行う予定である。
⑭ 11月「国際キャリア教育会議」を開催		
地域連携	4	地域の自治体、学校法人からの委員を交え、事業報告、点検評価、国際キャリア合宿セミナー(「国際キャリア開発特論」)案を審議し、地域のニーズや意見を事業に反映させた。
予算執行	4	宇都宮大学の会計基準に則り適切に予算執行した。
人事・組織	4	会議の効率性を考慮して、「国際キャリア教育会議」と「国際キャリア教育点検・評価委員会」を同時開催した。
法令遵守	4	「国際キャリア教育会議規定」に則り、外部者の公平な観点から点検・評価を行った。
説明広報	—	

継続性	4	「国際キャリア教育会議」は「国際キャリア教育点検・評価委員会」と同時開催され、会議の効率化及び委員の負担軽減が図られ、継続性が高められた。
全体評価	4	地域団体推薦の外部委員が加わることにより、客観的で公平な観点から本事業の審議がなされた。
⑮ 1月「国際キャリアFD委員会」企画講演会開催		
地域連携	4	栃木県内での限界集落支援、若手社会起業家支援などのボランティア活動に携わる、宇都宮市民活動サポートセンター所属の講師1名を招くことで、参加学生の地域おこしの活動への関心が高まった。
予算執行	4	2名の外部講師への謝金と旅費が適性に執行された。
人事・組織	5	有志の学生6名が講演会企画に関わり、講師選択や講演会当日の司会進行、質疑応答時のファシリテーションなどを担当した。学生主体の企画運営により、学生の関心に合った講師や講演会企画が実現した。
法令遵守	4	「国際キャリアFD委員会」により運営されている。
説明広報	5	学生自身がデザインしたチラシ・ポスター、及びメールマガジン、HP、Mixシィで広報を行った。また、特任教員と学生による授業での呼びかけを行った。
継続性	4	有志学生が企画運営に参加したことで、次回以降の講演会企画の際にも学生の経験が活かせる上、学生のニーズに合った講演会の実施が可能となる。
全体評価	4	宇都宮大学、白鷗大学、国際医療福祉大学、文教大学から合計32名の学生が参加し、活発な質疑応答が行われ、予定時間を超過する盛況であった。地域と国際舞台それぞれで活躍する2名の若手講師を招いたことから、参加学生にとり地域に根ざした、大学卒業後の具体的なキャリア・ビジョンを描ききっかけとなった。参加者のアンケートでは、「大変満足」79%、「満足」21%であった。
⑯ 2月「国際キャリア開発特論」開講		
地域連携	3	「国際キャリア開発特論」の8分科会の1つに「栃木県に外国人観光客を招く戦略」を取り上げた。「国際キャリア開発特論」は地域の学生や社会人に合宿セミナーを開放している。
予算執行	4	講師への謝金と旅費の支出を含む適正な予算執行がされた。
人事・組織	4	学生ボランティア5人を含む実行委員会が、運営にかかわった。教科書作成のために、記録係の学生6人をアルバイトとして雇用した。
法令遵守	4	「国際キャリア教育会議」の審議結果に従って、運営された。
説明広報	4	国際関連学部を有する全国の大学160校にチラシ・ポスターを配布した他、外部協力教員、メールマガジン・HP・ツイッターによって広報をしたことにより、北海道から中国・四国まで76人の参加者が集まった。
継続性	4	「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語I」の参加学生の51.3%が「国際キャリア開発特論」にも参加し、参加学生の結集力と本プログラムの継続性が向上した。
全体評価	4	全体講義の「国際開発分野でのビジョン実現」で、学生のキャリアパスがより明瞭になった。合宿の期間を従来の2泊3日から3泊4日と延長し、また優れた講師のおかげで、参加者同士の交流や議論の時間が増え、参加者の士気は向上した。アンケートで「大変満足」「満足」と答えた学生は全体の63%であった。
⑰ 2月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催		
地域連携	—	
予算執行	—	
人事・組織	—	

法令遵守	—	
説明広報	—	
継続性	—	
全体評価	—	平成23年3月東日本大震災の発生により延期し、平成23年5月の「国際キャリア教育会議」で合同開催する「国際キャリア教育点検・評価委員会」で点検・評価する予定である。
⑱ 2月「国際キャリア教育FD委員会」の開催		
地域連携	—	
予算執行	4	連携3大学の特任教員、協力教員の旅費の支給された。
人事・組織	3	「国際キャリアFD委員会」は連携3大学の特任教員と協力教員そして事務職員で構成されて会合を重ねてきているが、協力教員の参加の少なさが課題である。
法令遵守	4	「国際キャリアFD委員会」の規定は宇都宮大学の類似の規定に準拠して作成した。旅費は各大学の会計基準に従い、適正に支給されている。
説明広報	4	HPに「国際キャリアFD委員会」の紹介がされ、役割が公開されている。
継続性	3	本プログラムの企画・運営・実施の中核的組織になりつつある。
全体評価	3	「国際キャリア開発特論」の評価と、「国際キャリア教育点検・評価委員会」での審議事項を検討したが、協力教員の出席はなく、協力教員の参加が課題として残る。
⑲ 3月「平成22年度総合報告書」の策定		
地域連携	4	「平成22年度総合報告書」には、地域の協力機関・団体も構成メンバーとなる「国際キャリア教育点検・評価委員会」による事業評価・教育評価が含まれ、地域の意見が反映されている。
予算執行	4	「平成22年度総合報告書」は作成・印刷とも、ほぼ予算計画通りに執行できる見込みである。
人事・組織	4	「平成22年度総合報告書」は特任教員を中心に原案を作成。事業実績は「国際キャリアFD委員会」で審議され、また、平成23年度5月開催予定の「国際キャリア教育会議」と「国際キャリア教育点検・評価委員会」で審議決定される予定である。
法令遵守	4	個人、企業・法人に関する情報については、関連法令や企業・法人規定に違反しないよう、留意している。
説明広報	4	「平成22年度総合報告書」及び「国際キャリア合宿セミナー」（「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」）と「国際キャリア実習Ⅰ」の詳細をまとめた「平成22年度国際キャリア開発プログラム報告書」は本プログラム関係者及び、全国の国際関連学部を有する大学160校に配布する。
継続性	4	「平成22年度総合報告書」の刊行は本補助事業終了後も各大学の予算と自助努力で継続される予定である。
全体評価	4	「国際キャリア教育会議」での地域の観点を含めた審議を経ることにより、また、学生の意見や考察を記載することにより、地域・学生のニーズや実情に即した内容にまとめられる見込みである。
⑳3月「国際キャリア教育会議」を開催		
地域連携	—	

予算執行	—	
人事・組織	—	
法令遵守	—	
説明広報	—	
継続性	—	
全体評価	—	平成23年3月東日本大震災の発生により延期し、「国際キャリア教育点検・評価委員会」と合同開催される平成23年5月の「国際キャリア教育会議」で「平成22年度総合報告書」が審議、決定される見込みである。

・評価対象 20 計画

① 4月平成21年度に採用した特任教員及び事務職員は継続雇用
② 4月「国際キャリアFD委員会」を毎月開催し、平成22年度活動方針案作成と進捗確認を行う
③ 5月「国際キャリア教育会議」で平成22年度活動方針の審議・決定
④ 5月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を毎月開催
⑤ 5月「国際キャリア実習Ⅰ」に関する基礎調査及び国内実習先の開拓
⑥ 5月平成22年度開講科目の広報資料を作成し、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学や全国の大学へ参加を依頼する
⑦ 6月「国際キャリアFD委員会」企画講演会開催
⑧ 7月「国際キャリアFD委員会」企画講演会開催
⑨ 9月「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」を開講
⑩ 9月キャリア個別相談の開始
⑪ 10月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催
⑫ 11月「国際キャリア実習Ⅱ」に関して実習先と協定を結ぶ
⑬ 11月「国際実務英語Ⅱ」に関して講師の人選を行なう
⑭ 11月「国際キャリア教育会議」を開催
⑮ 1月「国際キャリアFD委員会」企画講演会開催
⑯ 2月「国際キャリア開発特論」開講
⑰ 2月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催
⑱ 2月「国際キャリア教育FD委員会」の開催
⑲ 3月「平成22年度総合報告書」の策定
⑳ 3月「国際キャリア教育会議」を開催

・評価における 5 段階評価軸

5:期待以上の成果を挙げた
4:期待通りの事業成果を挙げた
3:概ね許容できる目標達成の状況である
2:目標達成に不満が残る状況である
1:目標がほとんど達成されていない

2. 授業評価

2-1「国際キャリア合宿セミナー2010」レポート結果

授業評価

学生のレポートやアンケートをもとに、3つの合宿セミナー（国際キャリア開発基礎、国際実務英語、国際キャリア開発特論）と国際キャリア実習Ⅰの総合的な成果を以下のようにまとめた。

【合宿セミナー】

1. 学ぶ姿勢・学習法（国際キャリア開発基礎、国際実務英語Ⅰ）

先生が一方向的に教える授業では学生の頭は受動的になり、知識を忘れやすい。頭を能動的にするために知識の入力だけでなく、それを即他人に伝えたり（アウトプット）教えることが大事である。その能動性の有無が原因で人によって伸び方が違う。正解を他人から教えられるのではなく、自分やグループで正確について深く考える習慣をつけ。常に「なぜ？」と疑問を持つことにより、自分の意見を持てるようになる。大学生活でも主体的になることによって、脳が活性化する。

2. 自己分析（国際キャリア開発基礎・特論）

自分自身について知らない人は大変多い。多くの人と接するなかで刺激を受けるだけでなく、自分の考えの甘さや行動力の無さなどを改めて実感する。自分の強み、不足点や価値観がわかり、それによって自分のビジョンや将来の計画がより明確になる。

3. 人間力（国際キャリア開発基礎・特論、国際実務英語Ⅰ）

栃木県では地理的な要因もあり、大学外との交流が不足したり、他人と将来について意見交換をする機会を少ない。全国から問題意識の高い学生が参加する本合宿セミナーでは、短時間に知らない人と話す機会が多いため、コミュニケーション力が上がり、自分の視野や行動範囲も広がる。それによって自分の方向性がわかり、自分自身の自信もつく。ネガティブでなく、ポジティブな精神を持てるようになる。

4. 論理的思考（国際キャリア開発特論）

ビジョン実現に向けたプロポーザル作りでは、因果関係を考えながら、ロジカルに筋道をたてることで、自分や周りにとっても納得できるものとなる。また問題が起きた際、その原因を分析するだけでなく、その分析を裏返すことによって解決方法が見つかり、問題解決力も身につけることができる。

5. 語学力（国際実務英語Ⅰ）

日常生活において外国語を習得する場が少ないが、英語漬けの合宿セミナーでは、文法や表現の間違いなどを気にせず話すことによって、外国語習得の意欲や自信が上がる。

6. 学生間ネットワーク

本プログラムの改善を目的に、平成22年の「国際キャリア開発基礎」後に学生団体ICDP-s

(International Career Development Program for Students) が設立された。組織は約 60 名で構成され、連携 3 大学以外に国際医療福祉大学、共愛学園前橋国際大学、首都大学東京、独協大学、津田塾大学の学生が参加している。

活動実績は下記の通りである。

- ①国際キャリア合宿セミナーへの参加経験を基に、今後のプログラム内容に学生視点から多角的に提言、参加する。
- ②本プログラム参加者同士のネットワーク形成による持続的な情報交換、親睦を深める場として機能する。例：メーリングリストでのイベント広報や、同窓会の開催。

当ネットワークは、卒業後も継続可能であり、10 年後に講師として再び参加できることを期待する。

メンバーのモチベーションを維持し、かつ向上するために、今後は組織体制を確立し、情報・意見交換の場を強化し、講演会、セミナー、ワークショップ、スタディツアーなど ICDP-s 主催のイベントを企画する。

【国際キャリア実習 I】

2-2「国際キャリア実習 I」レポート結果

1. 仕事の大変さ

事前に予備知識を得ていても、実際の仕事とのギャップの大きさや仕事の幅広さを実感し、改めて仕事の大変さを経験できたこと、また一つの仕事をやり遂げるにも事前の周到な計画や、多くの人に係わりながら業務を進めていくということを身を持って味わうことで、協調や連携の大切さを実感したこと、そして、自分で考えることの大切さなど多くのことを学び、実習の目的を十分に達成した。

2. 仕事に対する姿勢

実習を通じて、問題の解決に向けて取り組んでいく姿勢や、自己主張だけでなく他の意見を聞く大切さ、主観的でなく客観的な物の見方、広い視野を持つことなど、心構えに関すること、また、価値観の確立や積極性、コミュニケーション力など、能力向上面での必要性を痛感したことで、これからの人生の貴重な糧になった。

附表

1. 委員会規定

(1) 国際キャリア教育会議

「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」の 実施に関する規程

制 定 平成 21 年 9 月 11 日

(国際キャリア教育会議決定)

(目的)

第 1 条 宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学は連携して、それぞれの大学が有する特色ある教育研究資源を活用し、学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ、地域の企業や自治体の国際化ニーズに応える人材を養成するための「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」(以下「プログラム」という。)を文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に基づき実施するものとする。

(プログラムの実施体制)

第 2 条 このプログラムは、次の大学の連携により実施する。

- 一 宇都宮大学
- 二 作新学院大学
- 三 白鷗大学

(プログラムの運営組織)

第 3 条 プログラムを運営するため、国際キャリア教育会議(以下「会議」という。)を置く。

2 会議は次の委員をもって組織する。

- 一 宇都宮大学から選出された者
- 二 作新学院大学から選出された者
- 三 白鷗大学から選出された者
- 四 国際医療福祉大学から選出された者
- 五 独立行政法人国際協力機構から選出された者
- 六 栃木県から選出された者
- 七 社団法人栃木県経済同友会から選出された者
- 八 財団法人栃木県国際交流協会から選出された者
- 九 いっくら国際文化交流会から選出された者
- 十 その他会議の運営に必要と認められる者

3 前項第 10 号の委員は、第 6 条第 1 項により選出した委員長が、会議の承認を得て委嘱する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議の任務)

第5条 会議は、次に掲げる事項を審議し実施する。

- 一 プログラムの企画に関すること。
- 二 プログラムの広報に関すること。
- 三 プログラムの実施に関すること。
- 四 プログラムの実施に伴う関係機関との渉外に関すること。
- 五 プログラムに係るFD（ファカルティーデベロップメント）に関すること。
- 六 プログラムの実施報告に関すること。
- 七 プログラムの点検・評価に関すること。
- 八 その他プログラムに関し必要な事項

(会議の運営)

第6条 会議に委員長を置き、委員の互選によって選出する。

- 2 会議に副委員長を置き、委員長が指名した者をもって充てる。
- 3 委員長は会議を招集し、議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

第7条 会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 会議は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会について必要な事項は、別に定める。

(プログラム事務局)

第10条 連携大学との連絡調整、会議の庶務、その他プログラムに関する庶務を行うため、プログラム事務局（以下「事務局」という。）を置く。

(事務局の組織)

第11条 事務局は次の者をもって組織する。

- 一 宇都宮大学から選出された者
- 二 作新学院大学から選出された者
- 三 白鷗大学から選出された者

四 その他事務局の運営に必要と認められる者

2 事務局の総括は宇都宮大学において行う。

(雑則)

第 12 条 この規程に定めるもののほか、プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 21 年 9 月 11 日から施行する。

2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず、選出された日から、平成 24 年 3 月 31 日までとする。

3 第 3 条第 3 項の規定により委員長が委嘱する委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず、委員長がその都度定める。

(2)国際キャリアFD委員会

国際キャリアFD委員会内規

制 定 平成 21 年 12 月 15 日

(国際キャリア教育会議決定)

(趣旨)

第 1 条 この内規は、地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラムの実施に関する規程（以下「規程」という。）第 9 条の規定に基づき設置する国際キャリア FD 委員会（以下「委員会」という。）の任務、組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の事項について審議し実施する。

- 一 国際キャリア開発プログラムに係る授業の内容及び方法に関する企画立案、調査、研究、実施に関すること。
- 二 国際キャリア開発プログラムに係る学生の支援・指導及び相談に関すること。
- 三 国際キャリア開発プログラムに係る事業実施計画案の策定に関すること。
- 四 国際キャリア開発プログラムに係る講演者・講師の人選に関すること。
- 五 国際キャリア開発プログラムに係る授業の内容及び方法の改善のための方策、企画立案、調査、研究及び実施に関すること。
- 六 国際キャリア開発プログラムに係る広報活動に関すること。
- 七 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)実績報告書案の策定に関すること。
- 八 その他国際キャリア開発プログラムに関し必要な事項

(組織及び運営)

第 3 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 宇都宮大学から選出された者
- 二 作新学院大学から選出された者
- 三 白鷗大学から選出された者
- 四 その他委員会の運営に必要と認められる者

2 第 1 項第四号の委員は、第 4 条第 1 項により選出した委員長が委嘱する。

3 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成21年12月15日から施行する。

2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、選出された日から、平成22年3月31日までとする。

(3) 国際キャリア教育点検・評価委員会

国際キャリア教育点検・評価委員会内規

制 定 平成 22 年 3 月 1 日

(国際キャリア教育会議決定)

(趣旨)

第 1 条 この内規は、地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラムの実施に関する規程（以下「規程」という。）第 9 条の規定に基づき設置する国際キャリア教育点検・評価委員会（以下「委員会」という。）の任務、組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の事項について審議し実施する。

- 一 国際キャリア開発プログラムに係る自己評価・外部評価（事業評価、授業評価）の方法に関すること。
- 二 国際キャリア開発プログラムに係る評価項目・評価内容・評価基準の策定に関すること。
- 三 国際キャリア開発プログラムに係る評価報告書の作成に関すること。
- 四 国際キャリア開発プログラムに係る公表に関すること。
- 五 国際キャリア開発プログラムに係る評価結果に基づく改善方策に関すること。
- 六 国際キャリア開発プログラムに係る改善の達成度の検証に関すること。
- 七 その他国際キャリア開発プログラムに係る点検・評価に関し必要な事項。

(組織及び運営)

第 3 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 宇都宮大学、作新学院大学及び白鷗大学特任教員
- 二 宇都宮大学、作新学院大学及び白鷗大学協力教員
- 三 その他委員会の運営に必要と認められる者

2 第 1 項第三号の委員は、第 4 条第 1 項により選出した委員長が委嘱する。

3 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成22年3月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、選出された日から、平成22年3月31日までとする。

(4)国際キャリア合宿セミナー実行委員会

国際キャリア合宿セミナー実行委員会内規

制 定 平成 21 年 9 月 11 日

(国際キャリア教育会議決定)

(趣旨)

第 1 条 この内規は、地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラムの実施に関する規程（以下「規程」という。）第 9 条の規定に基づき設置する国際キャリア合宿セミナー実行委員会（以下「委員会」という。）の任務、組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の事項について審議し実施する。

- 一 国際キャリア合宿セミナー実施計画案の策定に関すること。
- 二 国際キャリア合宿セミナーの実施に関すること。
- 三 国際キャリア合宿セミナーの実施報告に関すること。
- 四 その他国際キャリア合宿セミナーに関し必要な事項

(組織及び運営)

第 3 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 規程第 3 条第 2 項に基づき選出される国際キャリア教育会議（以下「会議」という。）の委員のうち、第 1 号から第 4 号までの委員
- 二 同第 5 号から第 9 号までの委員のうちから会議の委員長が指名する委員
- 三 その他委員会の運営に必要と認められる者

2 第 1 項第 3 号の委員は、第 4 条第 1 項により選出した委員長が委嘱する。

3 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(雑則)

第 7 条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 21 年 9 月 11 日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第 3 条第 3 項の規定にかかわらず、選出された日から、平成 22 年 3 月 31 日までとする。

2. 委員会名簿

(1) 国際キャリア教育会議

所 属	役職等	氏 名
宇都宮大学	副学長兼理事	渡邊 直樹
宇都宮大学	国際学部教授	友松 篤信
宇都宮大学	特任教員	米川 正子
宇都宮大学	国際学部事務長	品川 昇
作新学院大学	経営学部教授	劉 永鶴
作新学院大学	特任教員	大野 邦雄
作新学院大学	事務局次長	饗庭 悦夫
白鷗大学	教育学部教授	結城 史隆
白鷗大学	特任教員	眞貝 沙羅
白鷗大学	事務総括部長	島村 志津夫
国際医療福祉大学	医療福祉学部教授	福原 毅文
独)国際協力機構(JICA)	地球ひろば(広尾センター)地域連携課長	折田 朋美
栃木県	産業労働観光部国際課長	菊地 透
社)栃木県経済同友会	事務局長	小島 茂蔵
財)栃木県国際交流協会	事務局長	鈴木 一好
いっくら国際文化交流会	会長	長門 芳子
学校法人アジア学院	教務主任	大柳 由紀子
那須烏山市観光協会	会長	福田 弘平
株式会社上原園	代表取締役社長	嶋田一男
宇都宮大学	農学部教授	後藤 章
宇都宮大学	国際学部教授	重田 康博
宇都宮大学	国際学部講師	清水 奈名子

(2) 国際キャリア FD 委員会

所 属	役職等	氏 名
宇都宮大学	国際学部教授	友松 篤信
宇都宮大学	特任教員	米川 正子
宇都宮大学	特任事務職員	坂本 昌美
作新学院大学	経営学部教授	劉 永鶴
作新学院大学	経営学部教授	前橋 明朗
作新学院大学	特任教員	大野 邦雄
作新学院大学	事務局	野村 安子
白鷗大学	教育学部教授	結城 史隆
白鷗大学	特任教員	眞貝 沙羅
白鷗大学	事務局	鶴見 佳代子

(3) 国際キャリア合宿セミナー実行委員会

所属	役職等	氏名
宇都宮大学	副学長兼理事	渡邊 直樹
宇都宮大学	国際学部教授	友松 篤信
独)国際協力機構(JICA)	栃木県国際協力推進員	屋代 英二
いっくら国際文化交流会	会長	長門 芳子
作新学院大学	特任教授	大野 邦雄
作新学院大学	経営学部准教授	鈴木 隆
作新学院大学	国際キャリア開発プログラム事務局	野村 安子
白鷗大学	教育学部教授	結城 史隆
白鷗大学	特任講師	眞貝 沙羅
白鷗大学	国際キャリア開発プログラム事務担当	鶴見 佳代子
国際医療福祉大学	医療福祉学部教授	福原 毅文
宇都宮大学	国際学部教授	高際 澄雄
宇都宮大学	国際学部教授	重田 康博
宇都宮大学	国際学部講師	清水 奈名子
宇都宮大学	国際学部特任准教授	米川 正子
宇都宮大学	キャリア教育・就職支援センター教授	末廣 啓子
宇都宮大学	国際学部 事務長	品川 昇
宇都宮大学	国際学部 専門職員	久野 秀和
宇都宮大学	国際学部 総務係員	小竹 章裕
宇都宮大学	国際学部 特任事務職員	坂本 昌美
宇都宮大学	キャリア教育・就職支援室係長	矢口 隼人
宇都宮大学	学務部 修学支援課国際学部係長	大橋 和宏

(4) 国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会

国際キャリア開発基礎	宇都宮大学国際学部	倉持 光葉
	宇都宮大学国際学部	小林 ひとみ
	宇都宮大学国際学部	篠原 美佐希
	宇都宮大学国際学部	藤村 麻衣子
国際実務英語 I	白鷗大学教育学部	井上 璃美
	白鷗大学教育学部	大金 里香子
	白鷗大学教育学部	菊田 れいな
	白鷗大学経営学部	鈴木 沙也佳
	白鷗大学教育学部	似内 竜介
	白鷗大学経営学部	仁平 由美
	白鷗大学経営学部	萩元 仁文
	白鷗大学教育学部	藤田 さおり
	白鷗大学教育学部	渡邊 亜沙美
国際キャリア開発特論	宇都宮大学国際学部	會田 翔子
	宇都宮大学国際学部	赤坂 優実
	国際医療福祉大学	秋田 裕介
	宇都宮大学国際学部	秋元 明日香
	宇都宮大学国際学部	江連 祐希
	宇都宮大学国際学部	川島 正恵
	宇都宮大学国際学研究科	ハン ストーク ブレンデン

3. シラバス

(1)コンソーシアムとちぎ

・国際キャリア開発基礎

授業科目名	国際キャリア開発基礎	大学名	宇都宮大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	9月4日(土)5日(日)6日(月)
学部・学科等	国際学部	曜日	合宿形式(二泊三日)
必修・選択区分	選択科目	時限(時間)	45時間
標準対象年次	全学年	授業形態	講義および演習
単位数	2単位	授業会場	芳賀青年の家
担当教員名	米川正子(宇都宮大学:国際協力) 大野邦雄(作新学院大学:国際ビジネス/観光まちづくり) 眞貝沙羅(白鷗大学:国際理解)		
電話番号 (代表者名)	米川正子(宇都宮大学)028-649-5180 大野邦雄(作新学院大学) 028-667-0001(代)(月・水・木) 090-5790-2097(携帯) 眞貝沙羅(白鷗大学)0285-22-9874	e-mail アドレス	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp ohno@wmail.plala.or.jp shinkai@fc.hakuoh.ac.jp
オフィスアワー	e-mail や電話で質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい> 経済と一般的な労働事情、学生の職業選択などの概論を学んだ上で、国際的な第一線の現場で働く実務者の生の声を聞くことによって、国際的な仕事で働く意義や面白さ、職業観を分科会形式で教わります。さらに、それぞれの仕事に関する正しい知識と、そこで求められる能力、そこに至る具体的な道筋(キャリア)について学びます。最終的に、各自の関心分野や得意分野を(再)確認し、さらにそれをどの職務で活かすのかを知るきっかけ作りになります。</p> <p><前提とする知識・経験> 国際協力や国際交流などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際実務英語」と「国際キャリア実習」と併せて受講することが望ましい。</p> <p><授業内容と具体的な進め方> 国際的な第一線の現場で働く実務者を講師陣として招き、講義及びワークショップ形式を組み合わせ「国際キャリア開発基礎・合宿セミナー」を行います。各講師が関心・得意分野と職務について紹介し、勤務する機関の特徴、また各分野が直面している課題を学びます。事前にレポートの課題を提示し、合宿終了後に提出を課します。当合宿セミナーは大学外の参加者にも開かれています。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。</p> <p><授業計画> 1. レポートの課題を提示(前期予定) 2. 国際キャリア開発基礎・合宿セミナー(2泊3日) 2009年度は、国際公務員(国連難民高等弁務官事務所)、国際青年ボランティア(青年海外協力隊)、国際保健医療(国際医療福祉大学)、国際貢献企業(武田薬品工業株)、食と農と環境の国際協力(恵泉大学)、国際協力NGO(日本ボランティアセンター)、第三世界ビジネス(株式会社 FAR EAST)、留学・進学・インターンシップ(株式会社国際開発ジャーナル社)の分野で活躍する講師陣を招き、開催しました。以下は、2009年度の概略です。 1日目:各講師陣の講義、分科会 2日目:分科会、一般公開シンポジウム(特別講演、パネルトーク) 3日目:グループ発表(分科会の成果を各グループが発表) 3. レポート提出</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 事前に参考文献を提示します。</p> <p><成績評価法> 事前に集中講義用の履修届を提出した学生のみが単位取得の資格があります。 (事後的な単位認定申請は認めません) 国際キャリア開発基礎・合宿セミナーへの参加状況とレポートを総合して、評価します。</p> <p><教員からのメッセージ> 将来のキャリアで悩んでいる人は、是非積極的にご参加下さい。なお、更に主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画していきたい参加者を、学生ファシリテーターとして募集します。</p>		

・国際キャリア開発特論

授業科目名	国際キャリア開発特論	大学名	宇都宮大学
科目区分	VU 連携講座	開講時期	2011 年 2～3 月
学部・学科等	国際学部	曜日	合宿形式 (2 泊 3 日)
必修・選択区分	選択科目	時限(時間)	45 時間
標準対象年次	全学年	授業形態	講義および演習
単位数	2 単位	授業会場	芳賀青年の家 (予定)
担当教員名	米川正子(宇都宮大学:国際協力) 大野邦雄(作新学院大学:国際ビジネス/観光まちづくり) 眞貝沙羅(白鷗大学:国際理解)		
電話番号 (代表者名)	米川正子(宇都宮大学) 028-649-5180 大野邦雄(作新学院大学) 028-667-0001(代)(月・水・木) 090-5790-2097(携帯) 眞貝沙羅(白鷗大学)0285-22-9874	e-mail アドレス	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp ohno@wmail.plala.or.jp shinkai@fc.hakuoh.ac.jp
オフィスマナー	e-mail や電話で質問や相談に応じる		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい> 国際的な分野で仕事をするための専門的知識と実務能力の向上に向けて、同分野の第一線で活躍される講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、仕事への姿勢を学び、具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。</p> <p><前提とする知識・経験> 国際協力や国際交流などに関心を持ち、将来国際分野における進路を考えている、または国際分野に関する専門性をより高めたいと考えていること。「国際キャリア開発基礎」を受講していることが望ましい。また、関連分野のボランティア活動やアルバイト経験があれば、高い学習効果が期待できます。</p> <p><授業内容と具体的な進め方> 国際キャリア開発基礎論では講師や自分のキャリア形成について議論しますが、特論ではグループ・ディスカッションを通して、国際的な課題への問題解決を探ります。国際公務員、国際協力 NGO、国際青年ボランティア、国際舞台で貢献する企業などで活躍されている講師の方を招き、少人数のゼミナール形式で関連分野の文献講読やグループ・ディスカッション、実際の実務を仮体験するシミュレーションを取り入れたワークショップなどを通して国際分野に関係する専門的な知識と能力を高め、具体的なキャリアプランをイメージできることを目指します。合宿最終日には関連分野に関する知識をまとめグループ発表を行います。事前にレポートの課題も提示し、合宿終了後に提出を課します。当合宿セミナーは社会人を含む大学外の参加者にも開かれています。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。</p> <p><授業計画> 1. レポートの課題を提示 2. 国際キャリア開発特論・合宿セミナー(2 泊 3 日) 1 日目:各講師陣の講義、演習 2 日目:講読・ディスカッション、ワークショップ 3 日目:グループ発表(ゼミナールの成果を各グループが発表) 3. レポート提出</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 参考文献を事前に提示します。</p> <p><成績評価法> 事前に集中講義用の履修届を提出した学生のみが単位取得の資格があります。 (事後的な単位認定申請は認めません) 国際キャリア開発特論・合宿セミナーへの参加状況とレポートを総合して、評価します。</p> <p><教員からのメッセージ> 更に主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画していきたい参加者を、学生ファシリテーターとして募集します。</p>		

・国際実務英語 I

授業科目名	国際実務英語 1	大学名	宇都宮大学
科目区分	VU 連携講座	開講時期	9 月 18 日(土)19 日(日)20 日(敬老の日)
学部・学科等	国際学部	曜日	合宿形式(2 泊 3 日)
必修・選択区分	選択科目	時限(時間)	45 時間
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	2 単位	授業会場	芳賀青年の家
担当教員名	米川正子(宇都宮大学:国際協力) 大野邦雄(作新学院大学:国際ビジネス/観光まちづくり) 眞貝沙羅(白鷗大学:国際理解) その他専門講師招聘予定		
電話番号 (代表者名)	米川正子(宇都宮大学:国際協力) 028-649-5180 大野邦雄(作新学院大学:国際ビジネス/観光まちづくり)028-667-0001(代) (月・水・木) 090-5790-2097(携帯) 眞貝沙羅(白鷗大学:国際理解) 0285-22-9874	e-mail アドレス	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp ohno@wmail.plala.or.jp shinkai@fc.hakuoh.ac.jp
オフィスアワー	e-mail や電話で質問や相談に応じる		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい> 国際ビジネスや国際協力など国際分野や、国際交流活動・観光業などでの活躍に向けて、実践的な外国語運用能力を身につけることを目的とします。また、実務英語学習を通して、英語で自分の意見を伝える表現力や異文化の中で働くために求められるコミュニケーション・スキルの向上も目指します。</p> <p><前提とする知識・経験> 国際協力や国際交流などに関心を持ち、在学中から国際的なキャリアを身に付けたいと考えていること。また、英語力に応じてレベル毎にコース(初級/中級)に分けるため、中級のコースではある程度の英語力も必要とします。「国際キャリア開発基礎」(国際キャリア開発・合宿セミナー)を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習1」を同時にあるいは将来受講することが望ましい。</p> <p style="text-align: right;"><授業内容</p> <p><具体的な進め方> ①国際協力、②国際ビジネス、③国際交流と観光まちづくりの三分野に分かれて、国際分野での経験のある講師を招き、10人前後の少人数クラスを対象に2泊3日の合宿形式で実践的な英語を学びます。国際実務に必要なボキャブラリーを増やし、関連分野のリーディングなどの基本的スキルを高めます。さらにディスカッションやプレゼンテーション・スキルも強化します。合宿最終日には英語でのプレゼンテーションを行います。</p> <p><授業計画> 1. 英語レベルに合わせてクラス分け、プレーリーディング 2. 国際実務英語合宿セミナー(2泊3日) 1日目:実践英語 I ボキャブラリー、プレゼンテーション・スキル 2日目:ディスカッションとプレゼンテーション 3日目:成果発表とフィードバック 3. 課題提出</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 事前にプレーリーディングのためのテキストを提示します。</p> <p><成績評価法> 事前に集中講義用の履修届を提出した学生のみが単位取得の資格があります。 (事後的な単位認定申請は認めません) 国際実務英語合宿セミナーへの参加状況とレポートを総合して、評価します。</p> <p><教員からのメッセージ> 外国語習得のためには、まず慣れるのが一番です。文法は気にせず、合宿中は英語を話しまくり聞きまくり、自信をつけましょう。</p>		

・国際キャリア実習 I

授業科目名	国際キャリア実習 I	大学名	宇都宮大学
科目区分	VU 連携講座	開講時期	H22 年度夏と H23 年度春の長期休暇中の一定期間
学部・学科等	国際学部	曜日	H22 年度夏と H23 年度春の長期休暇中の一定期間
必修・選択区分	選択科目	時限(実習時間)	長期休暇中の最低 80 時間
標準対象年次	全学年	授業形態	実習
単位数	2 単位	授業会場	各受け入れ先機関
担当教員名	米川正子(宇都宮大学:国際協力) 大野邦雄(作新学院大学:国際ビジネス/観光まちづくり) 眞貝沙羅(白鷗大学:国際理解)		
電話番号 (代表者名)	米川正子(宇都宮大学)028-649-5180 大野邦雄(作新学院大学) 028-667-0001(代)(月・水・木) 090-5790-2097(携帯) 眞貝沙羅(白鷗大学)0285-22-9874	e-mail アドレス	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp ohno@wmail.plala.or.jp shinkai@fc.hakuoh.ac.jp
オフィスアワー	e-mail や電話で質問や相談に応じる		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい> 国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを目指して、国内の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。</p> <p><前提とする知識・経験> 国際協力や国際交流、国際ビジネスなどに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」(国際キャリア合宿セミナー)を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際実務英語」を同時にあるいは将来受講することが望ましい。また、NGO でのボランティアやアルバイト経験者や企業、自治体等でのインターンシップ経験者であれば、高い学習効果が期待できます。</p> <p><授業内容と具体的な進め方> 国内で国際協力事業を実施している NGO や市民団体、公的機関、在住外国人支援に関わる地方自治体、海外に事業所を持つ栃木県内の企業や観光業に関連した企業などをインターン先として、業務補佐などの実習を実施します(実習先として、国際協力機構、栃木県那須塩原市のアジア学院、福島県二本松の青年海外協力隊訓練所、栃木県国際交流協会、いっくら国際文化交流会、その他国際協力 NGO に加え、地方自治体観光関係部門、国際コンクール企画や海外アーティストのアテンドなどを行う民間団体も考慮中)。H22 年度夏または H23 年度春の長期休暇中の一定期間(最低 80 時間)を実習期間とし、事前指導を行い、希望の分野や機関に合わせて派遣します。インターンシップ終了後には、実習報告書を課題として課します。また、必要に応じて、事前研修を行います。</p> <p><授業計画> 1. 興味関心分野と受け入れ先機関とのマッチング 2. インターンシップに向けたオリエンテーション 3. インターン実習 4. 実習報告書提出</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 実習開始前に受け入れ機関や関連分野に関する資料を提示します。</p> <p><成績評価法> 受け入れ先機関からのインターンシップ修了証と、レポートを総合して評価します。</p> <p><教員からのメッセージ> 「百聞は一見にしかず」と言いますが、「百見は一触にしかず」です。実習を通して実務と理論の間のギャップを埋めてみませんか。</p>		

(2)宇都宮大学国際学部

・国際キャリア開発基礎

学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1,2,3,4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること			科目等履修生の受入	受入可

【授業の内容】

国際ビジネス、国際協力、国際交流・観光などの分野から第一線の実務者を講師陣として招き、講義及びワークショップ形式での合宿セミナーを行います。各講師の職務、働く意義、また各分野が直面する課題を学びます。事前に参考文献や専門用語で予習し、合宿後にレポート提出を課します。

【授業の到達目標】

1. 国際的な仕事で働く意義や面白さ、職業感を学ぶ、2. 国際的な仕事の知識と求められる能力、そこに至る具体的な道筋(キャリアパス)を学ぶ、3. 自分の専門性や関心分野をより明確にします。

【学習・教育目標との関連】

国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を身につける。

【前提とする知識、関連する科目等】

国際協力や国際交流などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際実務英語Ⅰ」と「国際キャリア実習Ⅰ」と併せて受講することが望ましい。

【授業の具体的な進め方】

国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務者のキャリアパスを聞き、テーマ別の分科会で様々な課題を学びます(2010年度のテーマは、人道支援、コミュニティー開発、観光まちづくり、ジャーナリズム、ビジネス等)。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります(3泊4日)。

【授業計画】

3泊4日の合宿 1日目:国際キャリアに関する講義、2日目:安全管理の講義、各講師陣の講義、分科会、3日目:分科会、グループ発表の準備、中間発表、4日目:グループ発表、総括。合宿セミナー後にレポート提出

【教科書・参考書・教材等】

事前に参考文献を提示します。

【成績評価】

参加状況40%, レポート60%

【学習上の助言】

自分のキャリアについて考えながら、全国の学生と交流できる良い機会です。将来のキャリアで悩んでいる人は、是非積極的にご参加下さい。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。

・国際キャリア開発特論

授業科目名	国際キャリア開発特論				
	International Career Development (Advanced)				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K999991
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1,2,3,4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること			科目等履修生の受入	受入可

【授業の内容】

国際的分野の第一線で活躍される講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、問題解決力及び仕事への姿勢を学び、具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。事前に参考文献で予習し、合宿後にレポートを提出を課します。

【授業の到達目標】

1. 国際的な分野で必要な高度な専門知識と問題解決力を学び、2. 具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。

【学習・教育目標との関連】

国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な高度な専門知識と問題解決力を身につける。

【前提とする知識, 関連する科目等】

国際協力や国際交流などに興味を持ち、将来国際分野における進路を考えている、または国際分野に関する専門性をより高めたいと考えていること。「国際キャリア開発基礎」を受講していることが望ましい。また、関連分野のボランティア活動やアルバイト経験があれば、高い学習効果が期待できます。

【授業の具体的な進め方】

国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務家を分科会の講師として招き、グループ・ディスカッションやシミュレーションを通して、国際的な課題への問題解決を探ります。合宿最終日には分科会で学んだことや提言をまとめ、グループ発表を行います。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。(3泊4日)

【授業計画】

3泊4日の合宿 1日目:ロジカル・シンキングに関する講義、2日目:安全管理の講義、各講師陣の講義、分科会、3日目:分科会、グループ発表の準備、中間発表、4日目:グループ発表、総括。合宿セミナー後にレポート提出

【教科書・参考書・教材等】

参考文献を事前に提示します。

【成績評価】

参加状況40%、レポート60%

【学習上の助言】

専門知識と問題解決力について学びながら、全国の学生と交流できる良い機会です。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。

・国際実務英語 I

授業科目名	国際実務英語 I				
	International Career Development Seminar I (English version)				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K110336
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1,2,3,4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	演習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること			科目等履修生の受入	受入可
<p>【授業の内容】</p> <p>「国際キャリア開発基礎」の英語版である本科目は、国際ビジネス、国際協力、国際交流・観光などの分野から第一線の実務者を講師陣として招き、講義及びワークショップ形式での合宿セミナーを行います。各講師の職務、働く意義、また各分野が直面する課題を学びます。事前に参考文献や英語の専門用語で予習し、合宿後にレポート提出を課します。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>1. 国際ビジネスや国際協力・国際交流活動・観光業などにおける、実践的な英語運用能力を身につける、2. 異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>【学習・教育目標との関連】</p> <p>国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を、英語で身につける。</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】</p> <p>初級/中級の英語力、そして国際協力や国際交流・観光などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」(国際キャリア開発・合宿セミナー)を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習1」を同時にあるいは将来受講することが望ましい。</p> <p>【授業の具体的な進め方】</p> <p>国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務者のキャリアパスを聞き、テーマ別の分科会で様々な課題を英語で学びます[2010年度のテーマは人道支援と平和構築、メディアと平和教育、食の安全保障、観光等)。また異文化でのコミュニケーション・スキルを強化します。合宿最終日には各分科会が発表を英語で行います。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。(3泊4日)</p> <p>【授業計画】</p> <p>3泊4日の合宿 1日目:国際キャリアやプレゼンテーション・スキルに関する講義、2日目:各講師陣の講義、分科会、3日目:分科会の続き、発表準備、中間発表、4日目:グループ発表、総括 合宿セミナー後、レポート提出</p> <p>【教科書・参考書・教材等】</p> <p>事前にプレリーディングのためのテキストを提示します。</p> <p>【成績評価】</p> <p>参加状況40%、レポート60%</p> <p>【学習上の助言】</p> <p>自分のキャリアについて英語で考えながら、全国の学生と交流できる良い機会です。外国語習得のためには、まず慣れるのが一番で、英語漬けの合宿に参加すると、大分自信がつきます。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。</p>					

・国際実務英語Ⅱ

授業科目名	国際実務英語Ⅱ				
	International Career Development Seminar II				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K110337
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1,2,3,4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること			科目等履修生の受入	受入可

【授業の内容】

「国際キャリア開発特論」の英語版である本科目は、国際的分野の第一線で活躍される講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、問題解決力及び仕事への姿勢を英語で学び、具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。事前に参考文献や英語の専門用語で予習し、合宿後にレポート提出を課します。

【授業の到達目標】

1. 国際的な分野に必要な高度な専門知識と問題解決力を英語で学び、2. 異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上、3. 具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。

【学習・教育目標との関連】

国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な高度な専門知識と問題解決力を、英語で身につける。

【前提とする知識、関連する科目等】

中級以上の英語力、そして国際協力や国際交流・観光などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」と「国際実務英語Ⅰ」を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ、Ⅱ」を同時に、あるいは将来受講することが望ましい。

【授業の具体的な進め方】

国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務家を分科会の講師として招き、グループ・ディスカッションやシミュレーションを通して、国際的な課題への問題解決を探ります。合宿最終日には英語でのプレゼンテーションを行います。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。(3泊4日)

【計画】

3泊4日の合宿 1日目:国際キャリアやプレゼンテーション・スキルに関する講義、2日目:各講師陣の講義、分科会、3日目:分科会の続き、発表準備、中間発表、4日目:グループ発表、総括 合宿セミナー後、レポート提出

【教科書・参考書・教材等】

事前にプレリーディングのためのテキストを提示します。

【成績評価】

参加状況40%、レポート60%

【学習上の助言】

専門知識と問題解決力について英語で学びながら、全国の学生と交流できる良い機会です。外国語習得のためには、まず慣れるのが一番で、英語漬けの合宿に参加すると、大分自信がつかます。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。

・国際キャリア実習 I

授業科目名	国際キャリア実習 I				
	International Internship I				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K999992
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1,2,3,4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること			科目等履修生の受入	受入可
<p>【授業の内容】 国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを目指して、国内の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。インターン後はレポート提出を課します。</p> <p>【授業の到達目標】 現場体験あるいは実習経験を積み、実務能力、企画力とコミュニケーション力を高めます。さらに、自分の関心分野や専門性をより明確にします。</p> <p>【学習・教育目標との関連】 国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を、現場の体験を通じて身につける。</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】 国際協力や国際交流、国際ビジネスなどに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際実務英語」を同時にあるいは将来受講することが望ましく、また、NGOでのボランティアやアルバイト経験者や企業、自治体等でのインターンシップ経験者であれば、高い学習効果が期待できます。</p> <p>【授業の具体的な進め方】 国内にある NGO や市民団体、公的機関、地方自治体、企業などをインターン先として、業務補佐などの実務を経験します。場合により、担当者と相談しながら自分の関心分野に合った実習のプログラムもつくれます。長期休暇中の集中型、あるいは週に1～2回行う通勤型があり、最低 80 時間を実習時間とし、希望の分野や機関に合わせて派遣します。事前指導を行い、インターンシップ終了後には、実習報告書を提出します。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 興味関心分野と受け入れ先機関とのマッチング 2. インターンシップに向けたオリエンテーション 3. インターン実習 4. 実習報告書提出 <p>【教科書・参考書・教材等】 実習開始前に受け入れ機関や関連分野に関する資料を提示します。</p> <p>【成績評価】 レポート50% 受け入れ先の評価 50%</p> <p>【学習上の助言】 「百聞は一見にしかず」と言いますが、「百見は一触にしかず」です。実習を通して実務と理論の間のギャップを埋めてみませんか。国内実習で、就職を乗り切る自信がつきます。</p>					

・国際キャリア実習Ⅱ

授業科目名	国際キャリア実習Ⅱ				
	International Internship II				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K999993
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1,2,3,4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること			科目等履修生の受入	受入可
<p>【授業の内容】 国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを目指して、国内の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高め、インターン後はレポート提出を課します。</p> <p>【授業の到達目標】 英語などの外国語を用いて現場体験あるいは実習経験を積み、実務能力、企画力とコミュニケーション力を高め、さらに、自分の関心分野や専門性をより明確にします。</p> <p>【学習・教育目標との関連】 国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を、現場の体験を通じて外国語で身につける。</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】 国際協力や国際交流、国際ビジネスなどに関心を持ち、海外で実地体験したいと考えていること。「国際キャリア開発基礎」(国際キャリア合宿セミナー)を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を受講しておくことが望ましく、また海外経験があれば、高い学習効果が期待できます。</p> <p>【授業の具体的な進め方】 国際 NGO や市民団体、公的機関、栃木県内企業の海外事業所などをインターン先として、業務補佐などの実務を経験します。場合により、担当者と相談しながら自分の関心分野に合った実習のプログラムもつくれます。H23 年度夏、H24 年度春の長期休暇中、また休学中の一定期間 (最低 80 時間)を実習時間とし、希望の分野や機関に合わせて派遣します。事前指導を行い、インターンシップ終了後には、実習報告書を提出します。また、必要に応じて、事前研修を行います。</p> <p>【授業計画】 1. 興味関心分野と受け入れ先機関とのマッチング 2. インターンシップに向けたオリエンテーション 3. インターン実習 4. 実習報告書提出</p> <p>【教科書・参考書・教材等】 実習開始前に受け入れ機関や関連分野に関する資料を提示します。</p> <p>【成績評価】 レポート50% 受け入れ先の評価 50%</p> <p>【学習上の助言】 「百聞は一見にしかず」と言いますが、「百見は一触にしかず」です。実習を通して実務と理論の間のギャップを埋めてみませんか。海外実習で、就職を乗り切る自信がつきます。</p>					

(3)白鷗大学経営学部

科目名	専門特講義 I (国際キャリア開発基礎) / 特講 I (国際キャリア開発基礎)
教員名	結城 史隆

【講義目的】

グローバル化の進展は世界経済の活性化に寄与する一方で、貧困層の一層の貧困化、貧富の格差の拡大をもたらしている。また、紛争・戦争・災害は終わるところを知らず、多くの民衆が災いの渦に巻き込まれている。このような状況の中で、さまざまな視点、理念、組織による国際協力・国際交流の推進がますます必要とされている。

本講義では、海外や国内の国際協力・交流に関するさまざまな機関、団体、企業、NPOなどで現在活躍している人物を講師として招き、それぞれの活動内容を報告していただくとともに、ワークショップ形式で討議をして、国際協力のありかたを学ぶ。その結果、国際協力・交流といってもさまざまな活動があり、また、そのようなキャリアのために、どのようなことを勉強したり体験したりすればよいか、明らかになる。

本講義は宇都宮大学が主催し、白鷗大学が協力校となっている。JICAをはじめ、国際交流基金、栃木県国際交流協会など、さまざまな国際協力・交流機関が後援している。これまで国際協力について全く勉強していなくても参加可能。広い世界に目を向けたい学生、国際協力で興味がありその内容を知りたい学生、将来、国際社会で活動を希望している学生にとって最適の講義である。

【講義概要】

(前回の事例)

講師と担当分野

1. 国際イベントクリエイター：中野民夫 博報堂 ディレクター
2. 異文化間コミュニケーター：高宮暖子 日本観光通訳協会 理事
3. ソーシャルビジネス：高須花子 フェアトレードカンパニー
4. 国際青年ボランティア：結城史隆 白鷗大学教授 青年海外協力隊顧問
5. 国際協力 NGO：重田康博 宇都宮大学教授 オックスファム・ジャパン
6. 国際公務員：阪本公実子 宇都宮大学準教授 前ユニセフ・UNDP
7. 国際ヘルスワーカー：石井博之 国際医療福祉大学講師
8. 農と環境の国際協力：平井英明 宇都宮大学準教授 NPO エコビリティ

【講義のすすめ方】

ワークショップに積極的に参加して、自分の意見を述べるとともに、さまざまな考え方を吸収してほしい。

【教材】

なし

[成績評価の方法・基準]

事前研修：10%

セミナーでの活動：40%

報告書：50%

[履修のポイント・注意点]

9月の前半に2泊3日で合宿施設に宿泊して行う。

[科目内容の位置付け]

特になし

[前提・関連科目（科目間関連の内容）]

事前に補完研修を行う。この研修を修了したものが参加できる。

執筆・編集・担当

宇都宮大学（国際学部）

教授 友松 篤信
特任准教授 米川 正子
総務係長 大野 和隆
総務係 坂本 昌美

作新学院大学（経営学部）

特任教授 大野 邦雄
事務局 野村 安子

白鷗大学（教育学部）

特任講師 眞貝 沙羅
事務担当 鶴見 佳代子

平成 21 年度文部科学省選定
大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」
平成 22 年度総合報告書

発行 平成23年5月